

とよたこどもの^{けん}権利^り フォーラム 2025



テーマ

まようもココでも「みつけた♪」
～いつでもそばにある こどものけんり～



報告書 2025.10.12 (日)

豊田市福祉センター

1階ホール、3階35～37会議室、4階フロア全体

主催:とよたこどもの権利フォーラム実行委員会 共催:豊田市

も く じ

はじめに ゆっくり積み重ねながら	実行委員長 釘宮順子	02
概要 開催から課題まで	事務局長 田島真実	03

フ ォ ー ラ ム

プログラム	06
メインプログラム	07
分科会	12
■ 分科会1 心が動く! それってどんな時?	12
■ 分科会2 こどもの権利×学校	14
■ 分科会3 あそびにおけるおとなの役割	16
親子でみる部屋	18
お楽しみ企画	19
企画・ブース一覧	19
■ こども発企画	20
■ おとな発企画/あったかスペース	22
■ スタンプラリー	23
■ 物販・本の展示	24
■ 団体ブース	26
団体パネル展示	27
クロージング	28

そ の 他

実行委員会について	30
■ 実行委員会スケジュール	30
■ 実行委員 私の「みいつけた♪」	31
■ チーム活動	32
■ 事務局	33
■ こども参加	34
■ こどもの声	36
アンケート結果	37
豊田市からのことば	42
参考資料	43
■ 実行委員団体紹介	43
■ ユニセフ子どもの権利条約	45
■ 豊田市子ども条例	46
■ ブックリスト	47
■ 歌プロジェクト歌詞	49
■ ツールリスト	50
協賛企業・団体/寄付/賛同団体一覧	51
関係団体・実行委員会	52
写真で振り返るフォーラム	

ゆっくり積み重ねながら

実行委員長し釘宮順子
(フリースペースK)

今年で2回目になる「とよたこどもの権利フォーラム」を2025年10月12日(日)に豊田市福祉センターで開催しました。今年の大会テーマは『きょうもココでも「みいつけた♪」～いつもそばにある こどものけんり～』でした。2023年の子どもの権利条約フォーラムで取り組んだ「こども参画」の企画を再開し、関わるこどもたちを募集。夏休みを中心に話し合い、実行委員が見守りながらていねいに準備を進めました。そして「こども発企画」として、こどもによるこどもが楽しめる企画運営が実現しました。当日、こどもたちは午前中のメインプログラムの司会も担当しましたが、その落ち着いた司会ぶりに「ほー」と。こうした経験や遊び等を通して、友達との付き合い方、様々なルールを身につけていくことでしょう。これからもいろいろなこどもたちが気軽に「こども発企画」に参加してほしいと思っていますが、まずは当日に遊びに来てほしいです。

また、午前中のメインプログラム、分科会では、遊びを通してこどもたちと関わっている方々、学校現場の教育運動づくりに取り組んでいる方を講師に迎えて、楽しい話の中で「子どもの権利」を身近に感



あったかスペースにて—
赤ちゃんは釘宮さんの腕の中、ママは安心の中

じ、考えることができました。2023年の全国フォーラムを開催する中で、一過性でなく継続することが大事だという想いを持った人達で「とよた版」を開催していますが、継続することで関心のある方々との交流と「子どもの権利」を発信することができている一方で、今後はもっとすそ野を広げる取り組みの必要性を感じています。こどももおとなも生きやすい社会になるようにと、これからも一歩ずつ進めていきます。皆さんもいろいろな形で関わってみませんか。

実施概要

- 《日程》2025年10月12日(日)10:00～17:00
《場所》豊田市福祉センター 4階+3階+ホール(豊田市錦町1丁目1-1)
《対象》関心のある方ならどなたでも
《参加費》メインプログラム・分科会 各500円(こども・若者、子育て世帯無料)セット価格800円
その他(パネル展示、お楽しみ部屋、クロージング) 無料
《申し込み方法》Peatix、当日受付
《オンライン》メインプログラム、分科会2のみオンライン開催あり
《主催》とよたこどもの権利フォーラム実行委員会 ※実行委員構成団体 19団体
《共催》豊田市
《後援》こども家庭庁・愛知県・愛知県教育委員会・豊田市教育委員会・豊田市社会福祉協議会・広げよう！子どもの権利条約キャンペーン・日本ユニセフ協会
《協賛》パンフレット協賛22社／団体
Instagram協賛7口 (2／17現在)
《寄付》183口(2／17現在)
《賛同団体》4団体
《事務局》イトノワ(委嘱)

開催から課題まで

事務局長 田島真実
(イトノワ)

1.フォーラムの開催経緯

2023年に開催された「子どもの権利条約フォーラム2023inとよた」(以下、全国フォーラム)では、2日間で市内外全国各地から延べ約2,000人の参加がありました。この大きな全国フォーラムを終え、運営に関わった当時の実行委員団体だけでなく、分科会を開催した団体やボランティア参加した市民、そして一般参加者からも、「これからもこのように集まれる場があったらいい」「フォーラムは必要だ」という声が集まりました。この高まった機運を豊田でつなげていきたい、との思いで、豊田版フォーラム＝「とよたこどもの権利フォーラム」が始まりました。豊田版フォーラムは2025年で2年目となります。

2.フォーラムの目的とねらい

フォーラムの主な目的

- 1) 子どもの権利条約の理念の普及
- 2) 子どもの権利について関心を寄せる人々の意見交換・出会い・交流の場の創出
- 3) 子どもの意見表明の場の創出

3.テーマ設定の背景

テーマ 『きょうもココでも「みつけた♪」～いつもそばにある こどものけんり～』

昨年のテーマは「おとなのものさし こどものまなざし」でした。大人は無意識のうちに、自分の常識や社会の当たり前、よかれと思う基準(＝ものさし)にこどもを当てはめてしまうことがあります。その視点に気付くことから始めたのが、1年目でした。

2年目は、権利は堅苦しいものではなく、日々の営みの中にあたりまえにあり、知ると楽になるものという思いが私たちの中にあることから、「こどもの日常生活にある権利」に光を当てたいと考えました。遊びや学校生活というこどもたちのすぐそばにある大切にしたい権利、大人がうっかり見落としがちな権利を探してみよう、というのが今年のテーマでした。

4.成果

今年度のフォーラムでは、はじめての取り組みがたくさんありました。まず一つが、「お楽しみ部屋」です。ここでは、こどもが企画したブースや団体ブース、物販、書籍展示、飲食可の休憩コーナーや乳幼児がゴロゴロ転がれるスペース、そして段ボールで自由に遊べるコーナーなど、講演で学ぶだけではない「権利を感じる」ことのできる企画を準備しました。あえて直接的に「権利とはこういうこと」と言葉にせず、場の空気感で権利の入口を伝えることを意識しました。

また、「オンライン配信」「親子でみる部屋(他の参加者に気兼ねなく小さい子と一緒にオンラインでプログラムを観る専用部屋)」もあり、様々な事情でメイン会場に足を運べない方への工夫も考えました。

さらに、“こどもによるこどものための企画”として、「こどもが本当にしてみたいこと」を数カ月かけて話し合いを重ね、ひとつの形として“こども参加”が実現しました。(※詳細P34)

5.課題

裾野をどう広げるか

本フォーラムの目的は、“多くの人に”子どもの権利を伝えていくことです。こども、保護者、こどもと関わる大人、様々な立場の人たちがいます。また、方法を考えても、言葉で伝える方法、感じてもらう方法、伝え方も様々です。目的を達成するために、私たちは誰に向け、どのような方法で伝えればいいのか、とても悩ましく感じる場合があります。

ただ、忘れてはならない前提は、「子どもの権利は、まず大人が知っておく必要があるもの」ということです。なぜなら、こどもがいくら自身の権利を知っていても、その環境をつくるのはどうしても大人が大部分だからです。つまり、大人が知っていなければ、子どもの権利が大切にされる環境をつくることは難しいのです。そう考えると、こどもと関わる仕事や活動をしている人、できれば一人でも多くの市民が、子どもの権利についての理解が共通言語のようになっていることが求められると思います。

まだまだ子どもの権利について理解が深い社会とは言い切れない中で、どう裾野を広げていくか？実行委員メンバーは、「権利はもっと簡単に考えてもいいもの」「身近なもの」「批判する/される根拠ではなく自分を守ってくれる根拠となるもの」という感覚を持っています。この感覚を、広く市民に伝え、共感者・仲間を増やしていくことが私たちの次のステップなのだろうと感じています。こどもが豊かに育つ社会に対し、否定的な人はいないのではないのでしょうか。共に学び合い、理解を深めていける社会的気運を高めていけるイベントを企画していければと思っています。

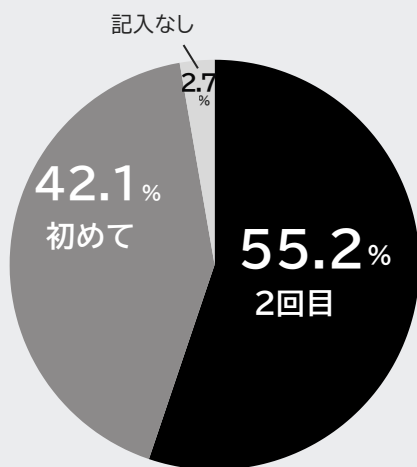
実行委員会やフォーラムに興味のある方は、ぜひ、ご連絡お待ちしております！

6.当日参加者数について 午前・午後 延べ477名

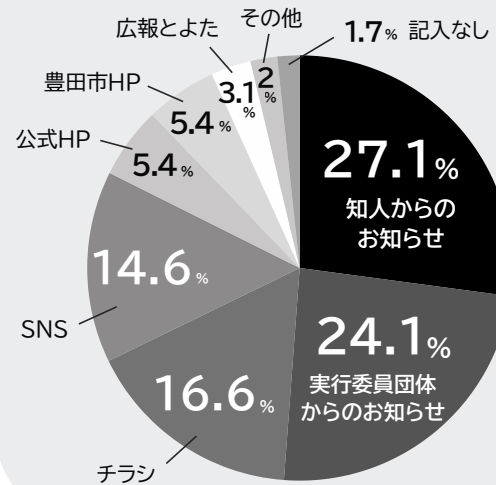
	会場参加	オンライン	こども スタッフ	実行委員	その他 (ボランティア/ 出展スタッフ)	計
メインプログラム	91	30	11	25	28	185
分科会①(佐道)	9	—		7		16
分科会②(武田)	51	35		9		95
分科会③(塚本)	8	—		3		11
パネル/ブース出展		—			10	10
こども発企画	149	—	11			160
						477

Peatix申込時アンケートより

とよたこどもの権利フォーラムへの参加は
何回目ですか？



今回のフォーラムを何でお知りになりましたか？(複数選択可)



開催スケジュール

10.12 日

10:00 ● メインプログラム
(9:30受付開始)

12:15 ● お昼休憩

14:00 ● 分科会
(13:40受付開始)

16:00

16:20 ● クロージング

17:00

12:30

16:00

● お楽しみ企画

こども発企画
おとな発企画
あったかスペース
スタンプラリー
書籍・絵本・ツールの展示
団体ブース

10:00

● 団体パネル展示

17:00



メインプログラム

実施場所

ホール

担当スタッフ

今西モト子、河村玲子、斉藤美紀、鈴木英衣、高橋弘恵、種村香絵、堀尚子、松田あゆみ、加藤康平、小松昌世、田島真実（11名）

参加人数

大人スタッフ 25名 こどもスタッフ 11名 スタッフ計 36名
一般大人 121名(うちこども参加人数不明) 一般参加者計 121名

実施内容

【企画目的・ねらい・ターゲットなど】

1. 他自治体からも注目されることの多い「ユニセフ日本型子どもにやさしいまちづくり事業実践自治体」として、豊田市担当課よりお話を伺い、自身の暮らすまちの現状を知り、自身の活動等につなげる。
2. こどもの身近にある権利に気づいたり見つけたりする機会となるよう、保育・学校・地域で実践を行うゲストの話から、明日からのヒントを得る場とする。ターゲットを市民活動団体や職業としている人に限らず、子育て中の若い一般市民にも足を運んでもらいたいという願いから、テーマを遊びや日常の身近なものに設定した。

ゲスト紹介

ファシリテーター 山下智也さん(北九州市立大学 教授)

3児の父として子育て中

- ・ 研究: こどもの遊び・居場所・地域参加
- ・ 実践: こどもの遊び場「きんしゃいきやんぱす」運営
プレーパークや放課後児童クラブの人材育成
- ・ メッセージ: 長男の愛着形成の実体験から「実践に勝るものはない」と実感。
研究と実践の両輪でこどもの育ちを考えている。

ゲストスピーカー 佐道大倫さん(めぐみと森のようちえん 共同代表)

11歳と4歳の2児の父として子育て中。パートナーと共同運営。

- ・ 保育のキーワード: 「対話」「選択と自由」「環境」自分の土台を創る保育
- ・ 背景: 学童保育での無気力な子どもたちとの出会いから、森のようちえんを設立
- ・ 実践: ・自己決定・自尊感情・つながりを育む保育
・ニューロダイバーシティの視点を取り入れた「石垣モデル」
・0歳からの切れ目ない支援と多様性を尊重する場づくり
- ・ 想い: スタッフも親もこどもたちもいろいろな特性がある。それをお互い認め合いながら、より明るい未来をつくっていききたい。

ゲストスピーカー 武田緑さん(学校DE&Iコンサルタント)

- ・活動:制度内の学校を中心に、DE&I(多様性・公正・包接)の視点で学校改革を支援。教職員向けの研修なども行う。
- ・目的:子どもも大人も、すべての人が「ここにいていい」と思える学校に。
- ・DE&Iの視点:多様性は表から見えないものが多い。「みんな違ってみんないい」と思っているも、同時に「世の中のふつう」「学校のふつう」「職場のふつう」も存在している。その人のふつうと環境のふつうが合うと有利、合わない不利になる。一人のふつうをみんなのふつうに合わせるのではなく、「学校のふつう」を多様な子がいることを前提に変えていく視点が大切。
- ・メッセージ:学校では子どもが全員マイノリティで大人が「ふつう」を決めている。だから、自然なこどもの姿と学校の環境が合わない。かつ、子どもで他にもいろいろなマイノリティ性を持っていると、複合的に困りやすい。子どもの声が聞かれる環境を学校教育の土台にしませんか？

ゲストスピーカー 塚本岳さん(特定非営利活動法人 こどもNPO 副理事長)

- ・経歴:森のようちえん、プレーパーク、児童館など多様な子どもの遊び場づくりに従事。
- ・想い:・「子どもは本来自ら育つ力を持っている」という信念
 - ・遊びの本質は「自らの意志で遊ぶこと」
 - ・子どもにとって「やってみる」が大切。「いいこと考えた！」をいくつか試せるか。
 - ・その中で起こる「失敗する権利」を奪わない。
- ・問題提起:・今の子どもは遊ばない？社会構造的にそれができない状況になっている。
 - ・コロナ禍で子どもの自由が制限され、大人と子どもの“管理と従属”の関係が強化されたことをより意識する必要性があるのではないか。

(※以下、ゲストの敬称略)

トークセッション

写真から見る「子どもの権利」…ゲストがこれまでの活動などで「子どもの権利が大切にされている」と感じた場面を提示してもらう。

どんな場面か会場内で想像し合った上で、実際の様子を伝えてもらった。

佐道) レジャーシートで食事する園児とスタッフの写真。他の園児とテーブルで食べるのではなく離れて食べ始めようとしたところに、何を言うわけでもなくスタッフの一人がそばで食べ始めたシーン。こどもの選択を自然に受け入れる様子。

武田) オランダの学校の写真。多様な姿勢・方法で学ぶこどもたちの様子と、上に座ることのできる棚やカラフルなラグなど、色遣いや建てつけから多様性を受け止める環境となっている。

塚本) 「暇」と言うこどもから想像もしない遊びが派生した写真。児童館にあった一見使えない小物で思いがけない遊びが始まっていた。大人から遊びの提案など、余計なことをしなくてよかったと感じた瞬間だった。



その後のトークでは…～対話の中で深まったテーマ～

- ・どこまで行っても「大人」であることは意識しつつ、なるべく同じ目線にいる
- ・与えすぎない・見守る・選択肢を渡す(大人は暇な子どもを見ると不安になる)
- ・子どもの権利を大切にしているつもりでも、我が子になると難しい(ゲストスピーカーでさえもそう)
- ・他の大人との「斜めの関係」や「バトンタッチ」の大切さ
- ・学校でのチーム担任制など方向性はいいが、教育観の共有(方向性、ゴールや目的)と対話が大切で難しい。先生たちもそこで悩んでいる。

ゲストスピーカーに聞いてみたいこと～参加者への事前アンケートより～

－ 質問 －

『『子どもの権利条約が現場に反映されていない』という問題提起から一步発展したお話が聞きたい』

山下) フォーラムで「子どもの権利は大切だね」「大変だね」という共有で終わるのではなく、「じゃあ私たちはどうしていったらいいのか」という兆しが見える話に進みたい。話を深めていきましょう。

<学校・児童館での工夫>

武田) 仕組みや環境の重要性: 親や先生の心がけ・マインドに左右されない「仕組み」「空間」「ルール」が重要。空間や仕組みにメッセージを込める。

例: 硬く冷たい席ではなく柔らかくカラフルな家具(空間づくり)、意見を出せる仕組み(先生の機嫌を見て意見を言わなくてよい)、対話の時間の確保。

塚本) 児童館: 武田さんの話に賛同。児童館も、「提案すればなんでもできる」「ここなら大丈夫」と思える場にする。

佐道) 保育: 二人に賛同。大人も対立を乗り越えて話し合って自己実現してきたか? 民主主義的な場には時間も労力もかかる。対話には緊張も摩擦もともない子どもも動揺する。大人が率先してその体験をしつつ、その場をつくっていかれるか試されている。

塚本) 大人も試されて一緒に成長しているのを感じる。

<問題が起きないように、ルールが必要か?>

佐道) いっそルールを作ってくれというニーズがないこともない。

塚本) 塚本たちがつくったルールならと、賛同してくれる保護者は多いと思う。大切なのは、自分たちで対話して納得すること。



多様な子がいる前提で、学校の「ふつう」を変えていきたいと話す武田さん



遊びの本質は「自らの意志であそぶこと」と話す塚本さん



「対話」「選択と自由」「環境」自分の土台を創ることを大切に保育をしていると話す佐道さん

結局ルールで納得できないこともある。自分が腑に落ちる議論やプロセスが大切。自分たちで変えられるということ。

武田) ルールは形骸化しがちなデメリットはある。対話を必要と感じていても「その時間はどこにある？」となる現状も。弱音を吐き出し合える職場にする取り組みもある。こどもの困りごとをどのように環境を変えると解決できるか？と考える。この手法は大人の困りごとに対しても使える。

佐道) 自分の状態・困りごとを伝えるために、スタッフ同士でチェックイン(話す)の時間を設けている。

<「場をつくる」とは？>

山下) 「場をつくる」とよく言うが、その心がけは？

佐道) グランドルールが大切:話は最後まで聞くなど、「この場所ならこれがいつも守られる」と思えるものがあることが大切。

塚本) ハード面の工夫:「君たちがいい」と感じられる空間設計。乳幼児向けすぎず中高生も居心地よく過ごせる工夫(中高生には幼児向けキャラクターは居心地が悪い。)

武田) 文化をつくる:場の参加者の認識が育っていく・醸成されていく=「文化を一緒につくっていく人」を増やすことが大切。一緒にお盆を持ってくれる人が増えると、問題が起きても場がひっくり返りにくい。持続性が生まれる。学校においても「こども参加」や「こどもの声を聴く」ことは一見大変に思えるが、こども自身が主体的に関わるようになると、中長期的には大人にとっても負担が減り、場が安定して続いていく。

※会場内で3分、今日感じたことなどを近くの人とシェアする時間

最後のメッセージ

山下) 今近くの方と話したことが、今後のうねりになっていくのではないかな。

佐道) 民主主義の入口にしたいなと思いめぐみと森のようちえんを立ち上げたことを思い出した。みんなできつっていく、尊重し合う、違いを認め合うことをあきらめずにやっていく社会にしたい。

武田) 大人の持っている権力を自覚し、こどもの事情と思い、大人にもある事情の間でどうやり取りしていくか。ジレンマを抱えながら関わり続けていくのだろう。

塚本) 箱庭を作っても仕方がない。不審者問題や遊ぶにもアポがいる時代。遊んでいるこどもを迎えに行かずに、窓から「ご飯だよ～帰っておいで～」と叫ぶ声が増えるまちになるといいな。

山下) 仕組みや空間、個人ではなくチームで社会全体に広げていく。フォーラムもその一つ。行政と市民が一緒になり、いきいきと作っている。フォーラムの裏にも大人と一緒にこどもが普通にいるなと感じた。誰一人、対立構造ではない誰かを責めるでもない、前向きな話ができただのではないのでしょうか。

豊田市こども・若者政策課 近藤啓史課長 あいさつ

活動の話を聞き、こどもの声を大切にする姿勢が共通していると感じた。大人の立場で効率を優先してしまうことがあると反省し、こどもの力は日常の中で見つけられると実感した。子どもの権利啓発では、こども園・学校・地域での取り組みを進めているが、高校生以上の認知度が低いことが課題。市だけでは限界があるため、今回のフォーラムのように市民と協力して啓発を広げていきたいと考えている。

印象に残った場面

- ・ゲストは豊富な知識や理論、理想をもとに多くの実践を重ねてきた一方で、いざ我が子の子育てとなると、思うようにいかなかったり、苦しさを感じる場面もあったりするというところ。
- ・周囲の人と感じたことを語り合う時間に、ゲストが参加者の席まで降りていき、直接交流していた姿がとても印象的だった。

参加者アンケートより

- ・子どもの権利、遊びについて ゲストの方の現場の体験を元に様々な話がお聞きできてよかったです。
- ・知らないと考えられないし、時間がないと考えられない。この時間(フォーラム)をもつこと自体が意味のあることだと思います。沢山の方にぜひ参加していただきたい。

担当スタッフの感想、企画をする上で悩んだこと・難しかったことなど

- ・メインプログラムとしてのターゲットを想定することで、チーム内での議論も深まり、テーマも見えてきた。ただ、テーマは、様々なものを入れ込もうとすると、かえって内容がぼやけてしまい、参加者に響くプログラム作りのむずかしさを痛感した。

豊田市報告「ユニセフ日本型CFCI実践自治体としての取組」

豊田市は2025年1月に「ユニセフ日本型子どもにやさしいまちづくり事業(CFCI※)」の実践自治体に承認されました。CFCIは、国連「子どもの権利条約」を市町村レベルで具現化するためにユニセフが進めている活動であり、現在約40か国・3,000以上の自治体で展開されています。豊田市は2007年に愛知県初の「子ども条例」を制定し、子どもにやさしいまちづくりを進めてきましたが、条例の理念を十分に実現できていない部分もあると感じていました。そこで、ユニセフが定める世界的な基準によって豊田市の取組を改めて見直してみようと考え、CFCIの取組を進めることにしました。

令和6年度8月にユニセフの基準をもとに作成したチェックリストで自己評価を行ったところ、法的枠組みなど一部項目では高い評価を得ることができましたが、課題も明確になりました。今後は「施策への子どもの意見反映」や「市民団体との連携による居場所づくり」などに力を入れ、市役所全体で子どもにやさしいまちづくりを推進していきます。



こども・若者政策課からの報告の様子

※「Child Friendly Cities Initiative」の略

【豊田市のCFCIの取組について、詳細はこちらをご覧ください】

<https://www.city.toyota.aichi.jp/kurashi/jinken/1053171/index.html>



心が動く！それってどんな時？

～こどもの遊びの見つめ方～

講師

佐道大倫さん(めぐみと森のようちえん 共同代表)

会場

42・43会議室

担当スタッフ

弥田美雪、杉本愛、鈴木貴子、堀尚子、本岡恵、山口真友子、小松昌世（7名）

参加人数

大人スタッフ 7名

スタッフ計 7名

一般大人 9名 一般こども 0名

一般参加者計 9名

実施内容

【企画目的・ねらい・ターゲットなど】

おとなが無意識に作っている「こどもの環境」の中で、子どもの権利をどうとらえるか。

日々の保育現場で模索しながらこどもたちと向き合う佐道さんのお話を伺う。

【何をやったか？・実際にやったこと】

森のようちえんでの様子や出来事などお話を伺った後、お題にそって各テーブルで話し合っ全体にシェアして掘り下げるグループワーク

お題①こども時代のあそびの記憶(覚えているもので一番古い記憶は何だろう)

お題②「遊びを見守るとき」と「一緒に遊ぶとき」の違いを考える

心が動く！それってどんな時？～こどもの遊びの見つめ方～

印象に残った場面、参加者の声、参加者の様子

【印象に残った場面】

・自分自身の遊びの記憶を思い出しながら、日々の何気ない遊びの中に子どもの権利がみつまっていることに気づけたこと。

・こどもの頃を思い出しているときのみんなが本当に楽しそうで、そこにはたしかに「時間」「空間」「仲間」がみえた。

・4ヶ月の赤ちゃんとお母さんがあそびのヒントを見つけに参加してくれた。

【参加者の声・様子・感想】

・子どもの権利と大人の権利がぶつかったときは、自分のこどもの頃を思い出して塩梅をさぐりながらこどもと関わっていきたい。

・あそびや日常の中に「こそ」子どもの権利はあると思えた。



佐道さんご夫婦で



赤ちゃんと一緒に参加されたママさんも

担当スタッフの感想、企画をする上で悩んだこと・難しかったことなど

ワークをしたことで、自分たちがこどもの頃のことを思い浮かべながら考え、聞くことができた。時間の都合で、園で大切にしていることの一つ、「対話」について詳しいお話を聞くことができなかった。個人的にここを詳しく知りたかったことを、この時に気が付いた。他の参加者さんも森のようちえんに関わる人も多く、気になる内容だったのではないかなと思った。



参加された方からも声を聴きながら



佐道さんからのおすすめの本たち



グループごとに話す時間も

こどもの権利×学校
～具現化の道筋を探ろう!～

講師 武田緑さん(学校DE&Iコンサルタント)

会場 41会議室

担当スタッフ 今西モト子、川合仁美、斉藤美紀、鈴木英衣、吉村迅翔、浦川由香、加藤康平
杉山(ボランティア配信補助)、芳賀(ボランティア配信補助)(9名)

参加人数 大人スタッフ 9名 スタッフ計 9名
一般大人 85名 一般こども 1名 一般参加者計 86名

実施内容

【企画目的・ねらい・ターゲットなど】

こどもにとって「日常の場」である学校で、こどもの声をどう聴き、どう受け取って子どもの権利を実現するか、全国の先生方と教育現場の課題解決にも取り組む講師を招いて、参加者と共に考える。

【何をやったか？・実際にやったこと】

＜講座＞DE&I(多様性、公正、包摂)が学校でも当たり前になることを目指して活動している。「ふつう」は二種類ある(“個人”のふつうと“世の中”のふつう)が、こどもたちの多様化についての理解が進む一方で、学校の「ふつう」が依然として残っていることで、不利益を被り困っているこども達がいる。マジョリティとマイノリティを決める切り口は様々で、見方によってはどの人もどちらにもなりうる。学校が多様性に対応できるようになれば、学校の枠組みの中で困っているこどもだけではなく、適応しているこども達にも選択肢の拡大がもたらされる(社会モデルの発想、事前的改善措置など)。

子どもの権利の具現化には困難が伴うがこども参加で道が見えてくる。こどもがNOという権利を大人が保障しこどものニーズに応答することで、自他の権利を実現するための手段であるということを経験していく(デモクラシーの4ステップ)。こどもと大人が双方を尊重しながら対話調整する経験が、自他を大切にするスキルの取得へつながる。大人側のリソース不足は否めないが、中長期的にはこどもの声を聴く方が実は先生も楽になる。立場を超えて保護者や地域が学校の変革を支えていけるように、声を届けられたら嬉しいとのこと。

印象に残った場面、参加者の声、参加者の様子

【印象に残った場面】

・マジョリティとマイノリティの話。だれもがどちらにもなりうるということ。「ふつう」について、自分の基準を押しつけていないかなど、考えさせられた。

・デンマークでは、子ども同士のけんかを「This is practice of democracy.」と呼ぶこと。

・こどもの声・意見を真摯に聴きつつ、大人の思いや考え、事情を伝え、対話し調整する。そのプロセスから子どもたちは、自らの影響力を実感し、自己やコミュニティを尊重するスキルを身につける。

・学校側のマンパワー不足は否めない。でも学校の中で頑張っている先生を後押しするために、保護者や地域の大人は声をあげていくことが必要。



武田さんのプロフィールをお聞きしながら「ふつう」をアップデート！

【参加者の声・様子・感想】

・「みんなにとって過ごしにくい場所を目指す」というのはとてもいいと思った。「AもBもいけるCはないのか？」と対話をしながら探していく」も、どの現場でもできること！

・子どもたちが選択できる基礎環境を整えてもらえるよう、私たちも勉強して、働きかけていくこともやれる。明日からやれることがたくさん見つかりました！

・内容がやや専門的で、一般保護者の立場からは難しい。

・一市民の参加(子どもが学校教育から卒業しても)を探ろうと思う。現場の先生やいろいろな子どもとの関わりを職にしている人と出会い、とても貴重な時間となった。

・時代の変化期がきていると思う。先生も保護者もみんなモヤモヤしている。ひとりひとりが考え動いていくことが大事。

・自分は障がい分野で活動しているが、その中でやっている大切にしている考え方(自己選択、自己決定、失敗する権利、社会モデル等)が他の分野(子ども)でも共通する部分があると思った。だからこそ、他分野がつながることさらに社会が変わっていくと思う。いろんなことを社会モデルで考えること、社会構造について考えて自分事で考えられる捉えられる自分でありたい。

・子どもの意見表明は[NO]という権利の保障であること。自分たちの普段の活動の根拠が知れてよかった。



初めて聞く言葉がいっぱいでした

担当スタッフの感想、企画をする上で悩んだこと・難しかったことなど

・ワーク形式で意見交換もあったので有意義に感じた。質問からも、参加者の中での変化を感じた。少しずつ権利についての理解が深まり、新たな人への広がり期待したい。

・オンライン参加者が会場の参加者と同様の参加ができるか心配だったが、質問の受け答えなどの対応もできてよかった。



オンライン参加の方からの質問にも丁寧にお答えいただきました

あそびにおけるおとなの役割

～環境づくりの視点から～

講師

塚本岳さん(特定非営利活動法人こどもNPO副理事長)

会場

36・37会議室

担当スタッフ

河村玲子、種村香絵、松田あゆみ（3名）

参加人数

大人スタッフ 3名

スタッフ計 3名

一般大人 8名 一般こども 0名

一般参加者計 8名

実施内容

【企画目的・ねらい・ターゲットなど】

「こどもには遊びを通して自ら育つ力がある」をモットーに活動している塚本さんの話を聞き、こどもを取り巻く環境の一部でもある大人は何ができるのか、どんな役割があるのかを考える。

【何をやったか？・実際にやったこと】

<遊び絵日記>

「こどもの頃どんな遊びをしていた？」というお題で遊び絵日記を描く。いろいろな遊びが出る中で、全員に共通していたのは絵日記に大人が出てこなかったこと。大人がいない空間で、自分だけで、兄弟だけで、友達とこっそり、遊んだことが心に残っている。今のこどもたちにこの環境はあるのだろうか？

<あるといいもの・ないといいもののワーク>

こどもの居場所を作ると仮定し、その環境として「あるといいと思うもの」「ない方がいいと思うもの」を付箋に書き出し、グループでシェアしながら費用大⇔費用小、手間大⇔手間小のマトリクス図を作る。他グループの人ともなぜそう思ったのかを話しながらシェアする。



印象に残った場面、参加者の声、参加者の様子

【印象に残った場面】

・こどもの環境においてはそこにいる大人も重要な要素である。大人が「いる」ことで変わることもあると意識しておくことが大事。

・おとなが成功に導いたり手助けしたりすることは、失敗する権利を奪っていることになる。こどもは、大人が思う以上に自分たちで合意形成したり自己決定したりすることができる。こどもが決めたルールにまかせよう。

・あそぶ事を辞めてしまうと、心が死んでしまう。今、小さい頃にいい思い出がないということも達がいという現実には驚いた。こども時代に「あー楽しかった！！」という経験をすることがとても大事だと思った。

・ワークで「ない方がいいと思うもの」に「口うるさい大人」「教えたがりの大人」などいろんな「大人」が出てきたが、あるグループでは手間大のところに、別のグループでは手間小のところに貼りつけていて、認識の違いがあることが面白かった。



こどもの頃の気持ちを思い出しながら絵日記を書いています

【参加者の声・様子・感想】

- ・こどもの遊びは無限大だなあと思った。一緒に作っていける人になりたい。
- ・年齢も働いている場も違う人たちなのに、感じていることは同じだったり…自分や大人ではなく「こども」を中心に考えているからこそだな～と実感した。
- ・初めに自分がしていた遊びを絵日記にしてみるワークがあり、自分のこども時代と今が全く違う環境になっていることを改めて感じた。その中でこどもの意思で遊べるようになる環境や関わり大切さを強く感じ、そういった場が増えていくといいな、できることを探していきたいと思った。失敗する権利を守っていくぞー！！

担当スタッフの感想、企画をする上で悩んだこと・難しかったことなど

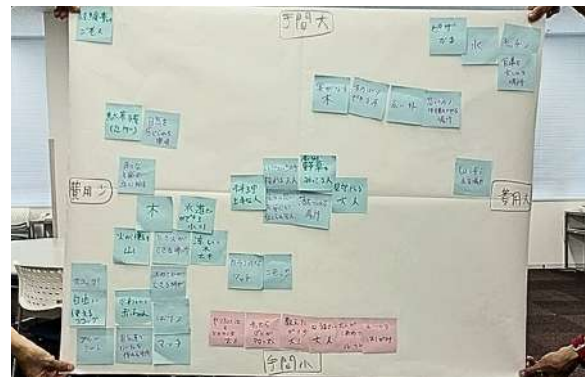
.....

今回はアットホームな雰囲気の中、スタッフも受講者と一緒に楽しく参加できた。

がくちゃんの話は何度聞いてもうなずく場面しかなく、こどもが多く時間を過ごす学校の先生にも知ってもらいたいと思った。参加者が少なくてちょっと残念。もっとたくさんの人に聞いてもらいたかった！



みんな真剣に楽しんでいます



こどもの居場所にあった方がいいもの・ない方がいいものを考えました

親子でみる部屋

会場 35会議室 メインプログラム&分科会2

担当スタッフ 杉本愛、山口真友子、山本貴美子（3名）

参加人数 大人スタッフ 3名(※スタッフの子 2名)
6家族(一般大人 7名 一般こども 5名)

スタッフ計 3名
一般参加者計 12名

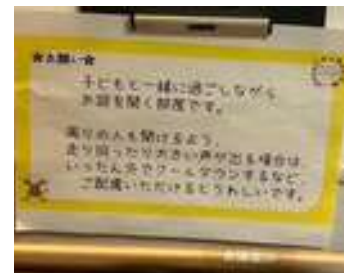
実施内容

【企画目的・ねらい・ターゲットなど】

会場での聴講が難しいと感じる子連れの参加者に向けて、ゆったりと気兼ねなくフォーラムの内容を視聴できるスペースを設け、学びにアクセスできる機会を提供する。

【何をやったか？・実際にやったこと】

- ・メインプログラムと分科会②の様子をライブ中継するモニターを設置
- ・椅子席、机席、ござ+ローテーブルエリアを用意
- ・絵本、折紙、画用紙&色鉛筆、音の出ないおもちゃ
- 様子を見て、貸し出せるように準備



印象に残った場面、参加者の声、参加者の様子

【印象に残った場面】

・最初から最後までメインプログラムを椅子席で聴講された3組の親子は、こどもがござエリアで遊ぶ中、こどもが話しかけ聴講が難しい場面もあったが、真剣にメモを取りながら参加していた。一定程度の目的が果たされた場面として印象に残っている。

【参加者の声・様子・感想】

- ・同室内で母子分離で過ごす、親子一緒にござで遊ぶ、親子一緒に机席で飲食しながら過ごす姿がみられた。
- ・親の一方がこどもとござ、もう一方が視聴する家族もあった。



椅子席、机席、ござエリアを用意しました

担当スタッフの感想、企画をする上で悩んだこと・難しかったことなど

- ・事前に、こどもの年齢層を想定するのが難しかった。
- 結果的には、年少以上、小学生低学年までの利用だった。



こどもが遊ぶ横で、真剣に視聴されました



机席では飲食しながら視聴される方もいました



お楽しみ企画 (12:30~16:00)



こどもがあそべるよ！

出入り自由・参加費無料・申込不要

こども発企画

こどもたちの「やりたい」を形に！こどもたちが創った「こどもが楽しめる」企画
*内容は変更になることがあります。

**全員集合
Welcome カルタ**

こどもの権利かるた&待ち時間にゲームも！*ゲームは予告なく中止になる場合があります。

**チャレンジしよう
射的ゲーム！**

だれでもOK、射的を楽しもう。たくさんのけいひんをとれるかな。チャレンジまってまーす。

**わくわくみんなで
簡単楽器づくり**

いろいろな楽器をつくって、みんなで音を合わせてみよう。音楽が苦手な子もぜひ！

**ドリンク
スポット**

世界の困っている人にドリンクを買って寄付してませんか？ぜひきてください♡

おとな発企画

「楽しんでほしい」を形に！おとなたちが考えた「こどもが楽しめる」企画

**ダンボールで
自由にあそぼう**

きみは何をつくる？

あったかスペース

～ほっとする時間と、つながりと、ちょっといいヒント～
乳幼児おやこさん、どうぞ♡

あったかスタッフとおもちゃと絵本を用意して待ってるよ！

スタンプラリー開催！

おとなもこどもも全員参加OK！ブースをまわってスタンプゲット。全部回れたらお楽しみがあるよ！

物販

こどもの権利フォーラム缶バッジ、クリアファイル、トートバッグ、カレンダー、書籍など。

書籍 & 絵本 & ツールの展示

こどもの権利に関する書籍がたくさん展示！絵本やすごろく、カルタなど、こどもが親しめるものもあります。



当日配布パンフレットより

※お楽しみ企画では、上記企画に加え、団体ブースも含めて「お楽しみ企画」として実施

こども癡企画

会場

お楽しみ部屋(45～47会議室をつなげて使用)

担当スタッフ

<大人スタッフ>

青木久美、川合仁美、釘宮順子、菅井真紀、杉本愛、鈴木牧穂、堀内まどか、本岡恵、山口真友子、山本貴美子、田島真実、松原康予（12名）

<こどもスタッフ(ニックネーム)>

かめくん、ことはちゃん、しおんちゃん、すーちゃん、たけるくん、たろうくん、ともくん、ほのかちゃん、みはるちゃん、ゆいちゃん、ゆっきー（11名）

参加人数

大人スタッフ 12名 こどもスタッフ 11名 その他関係者 27名 関係者計50名
一般大人 104名 一般こども 45名 一般参加者計149名

実施内容

【企画目的・ねらい・ターゲットなど】

こどもがフォーラムに参加するとは？を模索する初年度として、「こどものやってみたい」に挑戦する企画。どのような関わり方が考えられるのか、こども自身に聴くことから始め、企画を準備する過程で大人が寄り添うことなどを通して、子どもの権利のエッセンスを伝えることを目指した。

印象に残った場面、参加者の声、参加者の様子

- ・『お楽しみ部屋』の参加者は、様々なブースを巡り長い時間滞在してくれた人が多かった。
- ・目的の企画は特になく立ち寄ったという親子。「なんかわからないけど今日はすごく楽しかったね～なんだろう・・・」という会話が合った。

担当スタッフの感想、企画をする上で悩んだこと・難しかったことなど

・人前にはあまり出ない子が、こどもスタッフ体験後に、他の場面で「やってみようかな」と言うようになった変化を聞いた。人との関わりで心が育つ、関わりや体験の大切さを感じている。変化に気づけると、大人が連携し見守る環境を大事にしたい。

・担当スタッフは『必ずしも完成形にこだわらず、途中経過であっても、その時点でベストを尽くした形を発表すること』『余白を大切にしながら、この取り組みが今後へと繋がり、日常の中に根づいていく活動になれば』という想いで、こどもたちとともに当日を迎えました。本番に向かう勢いと、無理をしすぎない脱力のバランスは、今後の課題。こども一人ひとりの違いを認め合いながら、その子らしい力を引き出せる関わりを考えるとともに、安心で温かい環境を作っていきたい。

【難しかったこと】

- ・こどもスタッフのスケジュール確認、当日までの見通し。
→準備の日にはいない子のことを考えたり、当日欠席の場合に備えたりする必要があると感じた。
- ・大人スタッフの配置について。少数で固定メンバーで行う安定感と、こどもが様々な大人と関わる機会を創出することのバランスが難しいと感じた。関わる大人が増えれば、相応に引継ぎも発生し、大人の事務的な負担が増えることも実感した。

全員集合 Welcomeカルタ

企画目的・ねらい・ターゲットなど 自分たちの作ったタブレットゲームで遊んでもらい、年代・国籍に関係無く楽しんでほしい。カルタの対戦を楽しみながら、世界の子どもの権利に関心を持ってもらう。

何をやったか？・実際にやったこと 『世界の子どもの権利かるた（合同出版）』を使用し、参加者とスタッフが対戦。参加者に合わせたレベル設定などルールを工夫した。メダルなどの賞品を準備し、待ち時間には準備期間に制作したスクラッチゲーム(タブレットで作成)を提供。

印象に残った場面 参加者のレベルに合わせ、力加減の調整をしていた。決めてあったルールを変更し、参加者の年齢に合わせ札を譲ったが、次のターンではその子が譲り返しており、印象的だった。



誰もが楽しめるよう想いを込めて

チャレンジしよう 射的ゲーム！

企画目的・ねらい・ターゲットなど 自身の関心がある物を使って、「楽しい!」「またやりたい!」と思ってもらえる企画をしたい。主に小学生。全ての人。

何をやったか？・実際にやったこと 手作りの銃(輪ゴム銃・風船銃など)を、参加者に選んでもらい、手作りの的を狙う射的。お菓子などの賞品を準備した。

印象に残った場面 手作りの銃や、種類豊富な賞品への関心が高く、こどもスタッフの説明を参加者が真剣に聞き入っていた。手作り銃への関心を見極めてか、用意していたナーフ銃は使用しなかった。



安心して挑戦できるよう、丁寧な関わり

わくわくみんなで簡単楽器づくり

企画目的・ねらい・ターゲットなど 参加者間の交流を促すきっかけを作る。音楽が苦手な子も楽しさに気づいてもらう。主に小さいこども。

何をやったか？・実際にやったこと 廃材などで簡単な楽器を制作。数種類から選べ、発案したこどもスタッフが作り方を教えるサポートも行った。完成品は袋で持ち帰れ、フォーラムのロゴシールを貼りメッセージも書ける工夫をした。

印象に残った場面 参加者が作りたい楽器を選び、その発案こどもスタッフが対応する流れを作り、生き生きと説明していた。こどもスタッフ同士の信頼・連携が、参加者を大切にすることにも繋がっていた。計画していた楽器のセッションには至らなかったが、人と人との関わりそのものが“セッション”のようだった。



だれでも作れるよう工夫した心づかいと、丁寧なサポート

ドリンクスポット

企画目的・ねらい・ターゲットなど ドリンクの売り上げの寄付を通して、「こどもたちの役に立ちたい・やさしい循環」という想いを形にする。フォーラム参加者全般。

何をやったか？・実際にやったこと ドリンク・お菓子セットを販売。寄付先は、日本ユニセフ協会とオイスカ「子供の森」計画を選択できる。飲料缶にはフォーラムロゴシールを貼り、飲み終えた飲料缶はリサイクル業者に引き取ってもらった。寄付先の紹介展示も行った。

印象に残った場面 ずっと忙しそうだったが、こどもスタッフはいつも元気な対応をしていた。飲み終えた缶はリサイクルに出しても、手作りロゴシールを大事に持ち帰る人がいた。



小さな一缶から、支え合いにつながる企画

おとな発企画

※こども発企画と同一会場で実施し、大人スタッフが兼任体制。

ダンボールで自由にあそぼう

企画目的・ねらい・ターゲットなど 「楽しんでほしい」を形に。大人たちが考えた「こどもが楽しめる」企画。

何をやったか？・実際にやったこと 段ボールで自由に工作したり遊んだりできるスペースをつくる。

印象に残った場面 親が「こうしなさい」と言うことはなく、こどものペースや作りたい物のイメージに寄り添って親子で楽しんでいた。

参加者の声・様子・感想 出来上がった作品が大きくて困りながらも嬉しそうに持ち帰った親子がいた。

担当スタッフの感想など 来場者数がよめず、材料の量の判断が難しかった。また、安全面や使いやすさを考え、道具の選定にも悩んだ。



自由な環境がこどもたちをフロー状態へ導く、スキが散りばめられた空間

あったかスペース

※こども発企画と同一会場で実施し、大人スタッフが兼任体制。

企画目的・ねらい・ターゲットなど ほっとする時間と、つながりと、ちょっといいヒント。乳幼児や親子さん向け。

何をやったか？・実際にやったこと あったかスタッフがいる、おもちゃや絵本を置いたスペースをつくり、ゆったり過ごしてもらえる場をつくる。

印象に残った場面 4か月の赤ちゃんを初めてベビーカーで外出したというお母さんが、スタッフやスタッフのこどもにあたたかく迎えられ、安心した表情で過ごしていた様子。

参加者の声・様子・感想 幼児から小学生低学年までのこどもたちが積み木などで親子一緒に遊び、にぎやかで楽しい雰囲気だった。大人同士もゆったり話ができる空間だった。

担当スタッフの感想など こどもの人権をテーマにした絵本を借りようとした際、弁償の関係で断念したが、「どんな絵本にも人権の視点がある」と教わり、視野が広がった。過去フォーラムでの経験を活かし、当日は落ち着いて運営できた。



親子でちょっとひと息でき、そっとそばにいる第三の大人

スタンプラリー

※こども発企画と同一会場で実施し、大人スタッフが兼任体制。

企画目的・ねらい・ターゲットなど 沢山のブースを楽しく回ってもらえるように。こどもも大人も全員参加OK。

何をやったか？・実際にやったこと 団体ブース、こども発企画ブース等にスタンプを設置。10個すべて集めた方に景品をプレゼントする。

印象に残った場面 帰りを急ぐ親と、スタンプを全部捺したいこどもがいた。その後スタンプを捺するために立ち寄ったブースで、こどもが楽しく遊び、親も展示内容に関心を持ったようで、ブーススタッフと会話を楽しんでいる様子だった。足りないものは時間ではなく、心の余裕や人との関わりでは…？と、我が身も振り返ることができた。

参加者の声・様子・感想 スタンプを捺す目的で立ち寄ってくれた方も多く、企画してくれて良かった。(団体ブースの感想より)

担当スタッフの感想など 当日参加できないスタッフが積極的に案を出し、企画を進めた。スタッフについてきた子が意見を出し、興味が湧いた作業に関わることもあった。形にとらわれず、関わりたいと思えるところに、関わりたいタイミングで、関わるができる環境を作ることは、子どもの権利を考える上でも、とても大切なことだと感じた。



こどもも大人も、お楽しみ部屋をめぐりながら楽しむ企画

物販・本の展示

会場

お楽しみ部屋(45～47会議室をつなげて使用)

担当スタッフ

鈴木貴子、田島真実 ボランティアスタッフ:小松真一、平山賢治 (4名)
協力団体:江戸川子どもおんぶず

実施内容

【企画目的・ねらい・ターゲットなど】

- ・子どもの権利に触れられるツールを集め、参加者に届ける。
- ・フォーラムオリジナル品の販売をし、フォーラムの認知度を上げ、子どもの権利が守られる社会をめざす応援者・仲間を増やしていく。
- ・実行委員会の資金調達。

【何をやったか?・実際にやったこと】

<取り扱い販売物>全14種

とよたこどもの権利フォーラムオリジナルトートバッグ ¥1,000
とよたこどもの権利フォーラムオリジナル缶バッジ(こども価格) ¥100
とよたこどもの権利フォーラムオリジナル缶バッジ(おとな価格) ¥200
とよたこどもの権利フォーラム2024クリアファイル ¥100
『ワニブタカレンダー』(Art31) ¥1,000
『絵本の中の素敵な大人』(江戸川子どもおんぶず) ¥500
絵本『ユニセフとえがおのひみつ』(日本ユニセフ協会) ¥140
絵本『ちきゅうからのしつもん』(日本ユニセフ協会) ¥60
「子どもの権利条約」カードブック(日本ユニセフ協会) ¥60
『世界の子どもの権利かるた』(合同出版) ¥3,740
『ようこそ こどものけんりのほん』(白泉社) ¥1,430
JUNTOS缶バッジ ¥500
JUNTOSクリアファイル ¥500
こどもNPOTシャツ ¥1,000

<本の展示>「子どもの権利条約ブックリスト」に掲載されている
ほぼすべての書籍・絵本を展示。ブックリストはwebよりダウンロード可。
<https://www.tokaiedu.co.jp/kamome/pdf/CRCbooklist.pdf>



印象に残った場面、参加者の声、参加者の様子

【印象に残った場面】

・“ついで買い”が多くみられ、「フォーラムに来たからついでに買って見た」「コレを買うからコッチもついでに」と、次の行動だったり思いがけない本などとの出会いにつながった参加者がいるようだった。

・高額の商品が早くに売れたのが意外だった。日常に持ち帰り、自分の実践の場で生かそうという思いが伝わってきた。

【参加者の声・様子・感想】

- ・買い物できてたのしかった。
- ・ほしいと思っていたものが手に入った。
- ・缶バッチで大人価格とこども価格が分かれているアイデアが面白い。
- ・本の展示は、親しみやすいものから玄人向けのものまで見ごたえがある。この展示があるだけで圧巻。どのようにして展示が成立しているか知りたい。他でこのような展示を見たことがない。



会話をしながら、楽しくお買い物



お楽しみ部屋の一角に佇む物販コーナー

担当スタッフの感想、企画をする上で悩んだこと・難しかったことなど

- ・物販は、出版社との委託販売のやり取りが初めてだったこともあり、要領を得なかったが、経験が蓄積されよかったと思う。
- ・物販の仕入れ量の判断と、事前保管場所の確保が難しい。
- ・販売スタッフの確保が難しい。どんな品物かを知らない人をお願いするわけにもいかず、お金の管理なのでできるだけ実行委員がいいが、他のプログラム運営で手一杯になりがち。

団体ブース

会場

お楽しみ部屋(45～47会議室をつなげて使用)

担当スタッフ

鈴木貴子、山本貴美子、浦川由香、小松昌世（4名）

実施内容

【企画目的・ねらい・ターゲットなど】

- ・子どもの権利を大切に活動している団体を紹介し、多くの人に知ってもらう。
- ・「マッチング」をキーワードに、団体と何かがつながるきっかけの場にする。

【何をやったか？・実際にやったこと】

団体をより知ってもらう機会になるよう、手作り小物の販売や相談、活動紹介、活動者の募集などを行っていた。それぞれの団体メンバーと会って交流できる場を用意した。

5 団体が参加

一般社団法人JUNTOS、とよたプレーパークの会、野外保育とよた森のたまご、豊田・みよしおやこ劇場、みかわの助産師さん

印象に残った場面、参加者の声、参加者の様子

【印象に残った場面】

団体ブースは、どの団体も予想以上に盛り上がり、笑い声や熱心に話を聞く姿がたくさん見られた。どのブースも立ち寄りたくなるような、活動の魅力を伝えるための展示の工夫や遊べるコーナーがあり、知ってもらいたい想いが伝わる温かいブースだった。

【参加者の声・様子・感想】

- ・想像していたよりも交流したり、遊ぶことができて楽しかったです。
- ・スタンプラリーが良かったです。立ち寄る人たちと話せました。
- ・足を止めてくださる方々が多く、私たちも楽しくさせていただきました。
- ・アピール力やこういう機会をいかして伝えることが大事だと気づきがありました。
- ・たくさんのこどもたちの笑顔を見られて幸せでした！



出会い、つながり、想いが交差していた団体ブース

担当スタッフの感想、企画をする上で悩んだこと・難しかったことなど

お楽しみ企画が小さなこどもから大人まで楽しめる場であり、スタンプラリーも実施していたため、立ち寄りやすい雰囲気生まれた。

団体パネル展示

会場 41会議室前スペース

担当スタッフ 鈴木貴子、山本貴美子、浦川由香、小松昌世
2025年大会テーマの布看板制作:弥田美雪（5名）

実施内容

【企画目的・ねらい・ターゲットなど】

子どもの権利を大切に活動している団体を紹介し、多くの人に知ってもらう。

【何をやったか？・実際にやったこと】

実行委員団体、及び子どもの権利に関わる活動をしている団体に声をかけ、パネルを使って団体の活動を紹介してもらった。

19団体が参加

Sokkaの会、一般社団法人いま・ここ、豊田市こども・若者政策課、自立生活センター十彩、森のようちえん てんとうむし、BYBSコーチング、ガールスカウト愛知県第62団、ゆのか、みよしプレーパーク、みかわの助産師さん、あいづまのWA、守綱寺絵本読み聞かせの会、個性の強いこどもを地域で支える会、イトノワ、包括的性教育研究会にじのわ、とよた子どもの権利相談室、こどものマイクけんきゅうかい、あいちCAPプラス、梅が丘学園

印象に残った場面、参加者の声、参加者の様子

【印象に残った場面】

申し込みについて:団体ブースと共に、早い段階で枠が定員に達した。

担当スタッフの感想、企画をする上で悩んだこと・難しかったことなど

とよたこどもの権利フォーラム、こどもの人権のこと、こども関係の団体の活動をより多くの方に知ってもらいたい、つなげたいとの思いから、これまで関わりのなかった団体にも呼びかけたが、「展示を作るまでは大変・都合が悪い」ということで参加につながりにくかった。フォーラムのことを上手く伝えることや、興味を持ってもらい参加したくなるような呼びかけが難しいと感じた。



各団体が、想いを貼る、前日の時間

クロージング

会場

41会議室

進行

進行：山下智也さん(北九州市立大学教授)、
田島真実(とよたこどもの権利フォーラム実行委員会事務局長)

実施内容

【企画目的・ねらい・ターゲットなど】

フォーラム全体の締めとして、参加者間で感じたことを共有・共感したり、つながったりするための時間として企画した。また、得た学びを少しクールダウンしながら消化するための時間として、明日からの活動や日常に持ち帰ることができるよう意識した。

【何をやったか？・実際にやったこと】

1)こども発案のミニゲーム「ごうそく」

自分のゲーム上のニックネームを決め、参加者同士でじゃんけんをする。じゃんけんで勝った方のニックネームに改名する。何度か繰り返し、ニックネームの広がりなどを楽しむ。

2)グループ交流

当日パンフレットの一言欄に記入の時間を設け、その後グループになり自己紹介や印象に残ったこと、感じたことなどを共有。

3)「私の勝手な宣言タイム」

参加者に、宣言したいことや、感想などを発言してもらった。

4)歌プロジェクトによる歌唱

- ・「ループ」※「子どもの権利条約フォーラム2023inとよた」出演の際に制作された楽曲
- ・新曲「Unhappiness theory」

5)おわりに

事務局長田島より、改めてフォーラムの目的や目指すところ、どのような思いで開催しているのかをメッセージとして伝える時間をもった。

印象に残った場面、参加者の声、参加者の様子

【印象に残った場面】

- ・こどもが積極的に「宣言タイム」で発言していた。
- ・こどもの姿に刺激を受け、感化され発言した大人がいた。
- ・歌プロジェクトがアクシデントで準備が手間取った際に、事務局長が挨拶を前倒しし、その間に準備を進めてもらったが、挨拶の途中で感極まり言葉に詰まったとき、準備が整った歌プロジェクトメンバーの一人がバックミュージックを演奏してくれる一幕があった。
- ・歌プロジェクトの歌声に、涙している人がいた。



スタッフとして参加したこどもが、「明日からやってみようと思ったこと」を発表

【参加者の声・様子・感想】

- ・積極的に交流したりゲームに参加したりする人が多い一方で、会場の隅に座って全体を見るなどの参加者も一定数いて、クールダウンでの居方は人それぞれだと感じた。
- ・ゲームに参加するのは、ハードルが高い人もいる。



参加者、講師、関係者、スタッフで振り返りと交流のひとつ

担当スタッフの感想、企画をする上で悩んだこと・難しかったことなど

クロージングの目的を明確にしきれずに迷い、内容をギリギリまで決められなかった。参加者間の交流に重きを置くのか、一日の振り返りに重きを置くのか、どちらもしたいが時間は限られ、盛りだくさんにしようと頑張りすぎてしまったように思う。



山下さんの問いから生まれる、それぞれの気づき

とよたこどもの権利フォーラム2025 実行委員会スケジュール

	日時	主な内容
1	4/19(土) 13:00~16:00 市民活動センター	ワーク第1弾「こども参加って？」(ファシリテーター:山下智也さん) ※フォーラムの“こども参加”のとらえ方を深める
2	5/13(火) 12:30~14:30 福祉センター	ワーク第2弾「こども参加って？」 (大切にしたい“こども参加のまなざし”を言葉にする) 概要の確認、チーム活動①(顔合わせ)、マッチングコンテンツについて
3	6/10(火) 12:30~14:30 産文2階キラとよ	「私たちの“こども参加のまなざし”」意見交換 チーム活動②(大会テーマの検討・各チーム方向性の確認) ※6月上旬:広報とよた8月号枠取り(概要決定) ※6月下旬:公式HPオープン
4	7/8(火) 12:30~14:30 産文2階キラとよ	「私たちの“こども参加のまなざし”」仮決定 大会テーマの決定 チーム活動③(新企画についての意見交換、参加費について)
5	8/19(火) 13:30~15:30 産文2階キラとよ	全体確認(タイムテーブル、各コンテンツ内容、人員体制) 広報活動・制作物について(チラシ配布、その他販促品の検討) ※チラシ納品:8/18 広報とよた8月号 掲載
6	9/9(火) 12:30~14:30 産文2階キラとよ	当日パンフレット確認(第1稿) メインプログラム進行案、クロージング企画案、10月振り返り会企画案 人員体制の最終確認、作業日等の確認 参加者募集:9/5~10/10
前日	10/11(土) 福祉センター	前日準備
当日	10/12(日) 福祉センター	当日
7	10/14(火) 12:30~14:30 産文2階キラとよ	振り返り会(全体振り返り・交流) ※一般参加OK
8	11/11(火) 12:30~14:30 産文2階キラとよ	フォーラムの振り返り 報告書について
9	12/9(火) 12:30~14:30 産文2階キラとよ	実行委員会の目的とめざすところ ミニ講座『子どもの人権とCAPが目指すもの』(講師:斉藤美紀さん) 次年度について(実行委員会運営、各コンテンツ、広報戦略)
10	1/13(火) 12:30~14:30 産文2階キラとよ	ミニ講座『特別支援教育の現状や不登校の現状』 (講師:豊田市青少年相談センター職員) 次年度について(テーマ設定、概要、開催日などの決定)
11	2/10(火) 12:30~14:30 産文2階キラとよ	次年度について(テーマ設定、概要、開催日などの決定) 報告書配布、会計報告、次年度について
※	3/10(火) 11:30~13:30 産文2階キラとよ	メインプログラム鑑賞会 次年度について(テーマ設定、概要、開催日などの決定)

私の「みつけた♪」

実行委員会の道のりの中でみつけた、それぞれのかけら

河村玲子

特定非営利活動法人 こどもNPO

新しい学校のカタチ

「自席以外に座る場所がない」という武田さんの言葉に衝撃を受けました。それが当たり前と思ってたけど、そうじゃなくてもいいんだって。学校にソファを入れよう。

杉本 愛

野外保育とよた森のたまご

こども発企画のこども達、自分のしたい事を大人と何度も何度も話し合っていました。当日、こども発企画のブースを回ると、そのこども達の生き生きとした表情、キラキラした笑顔を見つけました。

斉藤美紀

あいちCADプラス

昨年、一昨年も同じくですが、実行委員会で知恵を出し合って協働して、同じ方向を向いて作り上げていくことの素晴らしさを改めて感じました。こどもも大人もいろいろで、一人ひとりが権利をもった大切な人。環境を変えて困りごとを減らしていけば、たくさんの人の困りごととは減っていくはず。そのためには声を聴くこと、お互いに対話をして折り合いをつけて生きやすい社会を実現する、そのプロセスをこのプロジェクトに参加することで体験できたと思います。

小松昌世

Sokkaの会

”こどもには「失敗する権利」がある”

鈴木 貴子

豊田・みよしおやこ劇場

“子どもの権利”を大切にする方々との出会い、繋がることができ、新たな発見や刺激がたくさんありました。『こども』のことを想う温かい気持ちに触れながら、丁寧にフォーラムを創りあげる時間はとても楽しい時間でした。

浦川由香

自立生活センター十彩

日常のなかに、大事な一瞬があるんだなと思いました。それを見逃さないようにしていきたいです。

田島真実

イトノワ

「こどもへの伝え方の新しい引き出しを見つけました♪

こどもにあなたがたいせつだよと伝える方法は、言葉かけや態度だけではない。例えば、机の並べ方、物の形…。四角いものが整列している場では「きちっとすべき」といったメッセージが暗に示されているなあと。

これから、「メッセージを込めて”こどもの環境をつくることにトライしていこう”と思いました！」

松原康子

BYBSコーチング

おとなのつくる環境の波紋がこどもへと広がり、こどもと参加者の間では、波紋がやらず、混ざり合い、揺れ返しながら、その瞬間ごとの“こどもたちのかたち”が生まれていた。

チーム活動

実行委員は以下のいずれかのチームに入り、企画を進めた。様々な団体が混ざり合っただけでチームをつくることで、知見も合わさり交流のきっかけも生まれ、各チーム活動が充実したものとなった。

チーム	主な役割	報告書
メイン・分科会	メインプログラム、分科会、クロージングの企画	P7～17、28～29参照
こども参加	こども発企画、おとな発企画	P20～23参照
広報	広報活動、協賛寄付の募集	P32参照
会場しつらえ	会場や展示などの案内作成	P32参照
お弁当	講師やスタッフの弁当手配	P33参照
配信	メインプログラムと分科会2の配信	P33参照

プログラム以外を担当したチームの感想・想い・大切にしたこと

● 広報チーム

主な役割: 広報活動、協賛・寄付の募集

担当: 弥田美雪 浦川由香 堀尚子 松原康子 吉村迅翔

フォーラムをもっと知ってもらえるといいなあと、思って広報チームに手を挙げました。伝えたい、知りたい、それらを介してつながることのつながりや、生まれる文化の大切さを実感しながら、これからの活動に活かしていきたいと思っています。



想いをつなぐ協賛寄付チラシ

● 会場しつらえチーム

主な役割: 会場や展示などの案内作成

担当: 浦川由香 小松昌世 鈴木貴子 山本貴美子

会場が広がり、配信や親子でみる部屋、お楽しみ企画や団体ブースなど新しくやることも多かったため、案内がグッと増えました。昨年同様に見やすさなど相談しながらできたこと、販売は思いを持ったメンバーに託せたことで、見やすいくいい雰囲気にできあがりました。



やさしさが伝わる案内
静かな名脇役

● お弁当チーム

主な役割:講師やスタッフの弁当手配

担当:浦川由香 杉本愛 山口真友子 堀内まどか

予算内で配達してもらえるお弁当屋さんを探すことは大変でしたが、注文の取りまとめやお店との連絡など学ぶことがいろいろありました。慌ただしい時間のなかで、ホッとできる食事の担当ができて嬉しかったです。



ひと手間が、フォーラムのひとつを癒す一ほっとできる間の食

● 配信チーム

主な役割:メインプログラムと分科会2の配信

担当:加藤康平 鈴木英衣 田島真実 吉村迅翔

*ボランティア 杉山裕興 芳賀亮介 高橋亮

配信では直前のトラブルも多くありましたが、より多くの方々に見やすくお届けしたいという思いから、実行委員をはじめ関係者全員が最後まで熱意を持って全力で取り組みました。フォーラムに関わるすべての人が温かく支えてくださり、初めて配信を担当した人も全力を尽くせたと思います。



舞台裏で、メインプログラム見守る背中



会場から、瞬間を届けるための念入りのチェック

事務局

● イトノワ

主な役割:実行委員会運営やフォーラム開催に必要な諸事務

事務局員:田島真実(事務局長)、浦川由香、加藤康平、小松昌世、松原康予

スポット事務局:鈴木英衣(会計)、堀尚子(Ig更新)

実行委員団体の特徴や委員個々の得意を生かせる事務局であるよう心掛けました。議論の主導権はあくまで実行委員がもっていることを忘れず、事務局としての役割を果たしていきたいです。

事務局長 田島真実



フォーラムの歩みを映す、手作り布看板

こどもとおとながつむぐ、こども参加のプロセス

担当事務局 松原康予
(BYBSコーチング)

1.こども参加 “はじまりの1年”

2024年度叶わなかった『こども参加』に向き合いたい。そんな思いから、私たち実行委員は改めて立ち止まり、「こども参加とは何か」「私たちは何を大切にしたいのか」を探り、ことばにするところから歩みを始めました。私たち実行委員が大切にしたいまなざしを土台に据え、その上でこども参加チームを中心に、こども参加をどのように形にしていけるのかをゼロベースで話し合い、対話を重ねてきました。その中で、次のような大切にしたい輪郭が少しずつ見えてきて、それをみんなで手に取りながら、歩みを重ねていきました。

- ・2025年を「こども参加元年」と位置づけ、小さなところから温めていきたい
- ・フォーラムはゴールではなく、継続的な取り組みとして次へとつないでいくプロセスの途中にある、一つの通過点。無理に完成形を求めるのではなく、プロセスがあるからこそ生まれた「今の形」を、そのまま大切に届けていきたい
- ・おとなとこどもは異なる存在であり、その違いを前提とした上で、一人ひとりの声や視点が尊重され、個として向き合える関係性を根底に、ともにプロセスを大切にしていきたい

2.声とともに

2023年の全国フォーラムや、これまでのフォーラムに関わったこどもたちから、「また声をかけてほしい」「こういう機会があれば参加したい」といった声が届いていました。2025年度は、そうした声に向き合うことから始め、まずは「声を聴くこと」を大切に、ヒアリングを行いました。集まった声をきっかけに、こどもたちの「やりたい！」という気持ちを起点に、こども発企画が動き出しました。おとなは、こどもの声と権利が大切にされていることを意識しながら、必要以上に介入せず、そばで見守る伴走者として関わりました。活動の中では、「話し合いそのものが大切」「安心して話せるからこそ自分でいられた」といったこどもたちの声をもとに、安心安全な場づくりを重ねました。提案したグランドルールは、回を重ねる中でこどもたちのことばが加わり、「守るもの」から「ともに育てていくもの」へと変化していきました。声が重なり合い、揺れ動きながら、少しずつ方向が見えていく——その過程そのものが、2025年度のこども参加のストーリーとなっていました。

3.こどもたちがつくった当日の空気

前日準備から当日にかけて、チームごとにこどもたちが中心となり、空間をつくり上げていきました。そこには、おとなも驚くほどの工夫や、一体感があり、こどもの可能性は、おとなのものさしでは測りきれないほど無限でした。自分にできることを考え、一人ひとりが自分らしく力を発揮する姿が印象的でした。

参加者から、「できないところをこどもたちが親切に教えてくれた。おとなが指導しているのか!?!」「こどもたちが権利について一生懸命考えていると感じた」「誰にでも優しく応えていた」などの声が寄せられました。実際には、当日の流れや動きまで準備できないまま迎えた部分も多く、そうしたやりとりは、誰かに教えられたものでも、指示されたものでもなく、その場に生まれた関係性の中から、自然に立ち上がってきたものだったと感じています。私たちが軸に置いていたのは、「権利を教える」ことではなく、安心できる場をつくることでした。こどもといっしょに考え、迷い、向き合うプロセスそのものが、こどもにとっての「生きた権利」になっていたのだと思います。小さなコミュニティの中にまかれた種が、気づかぬうちにあちこちで根を張り、それぞれの場所で花を咲かせていくように、権利は一瞬一瞬の向き合いの中で行き交い、息づいていくのではないのでしょうか。

4. こども参加は、プロセスそのもの

当日だけを見れば、そこに至るまでのプロセスは見えにくいかもしれません。しかし、準備の時間や対話の積み重ねを経て迎えた当日には、こどもたちから自然とにじみ出る空気や、安心していられる感覚がありました。人によって感じ方や受け取り方はさまざまで、ときには違和感が生まれることもあります。それも含めて、こども参加は一つの正解に向かうものではなく、問い続け、確かめ続け、余白を残しながら育っていくプロセスそのものだと捉えています。

その道のりすべてを見える形にすることは難しいかもしれませんが、今この瞬間に立ち上がっている姿こそが、私たちが実現した「一つの形」でした。

2025年度は、小さなところから温め、こどもたちの声や視点という色が、少しずつ重ねられていきました。目に見える形がなくても、一瞬一瞬の声があったからこそ、場に深みや表情の変化が生まれていたのだと感じています。

5. 未来へつなぐ挑戦

こども参加元年は、立ち止まりながら考え続ける「権利を生きる」実践だったように思います。

特定の少数のおとなだけでなく、こども参加チーム全体で関わる形を目指しました。しかし、実際にはおとなの体制を整えることの難しさや準備の大変さなど課題も多くありました。その中で、それでも自然と小さなコミュニティが生まれ、こどもたちの間で関係性が育っていったことは、ひとつの豊かさとして感じられました。固定の関係性で生まれる安心感もあれば、さまざまなおとなと出会い、それぞれの「権利のあり方」に触れる時間もありました。うまくいかない場面もありましたが、小さな社会の中で、おとなもこどもも迷い、試し、向き合い、関係を結び直す。その中で生まれる“ちょうどいい塩梅”こそが、権利を生きる感覚なのだと感じました。

今回のやり方が正解だったとは思いません。それでも、チームで対話し、試行錯誤を重ねる中で、一人ひとりがその時できるベストを尽くす姿は、まさに「権利を生きる」行動でした。

権利の形は出会うたび、向き合うたびに変わり、難しさや挑戦もありながら、そのプロセス自体が日常の権利へとつながり、失敗さえも次へ進む道として自然に育っていきました。

権利は生もので、完璧な環境を整えるより、その場のみんなでいっしょに考えること。立ち止まり、考え、関わり続けるその積み重ねこそが、権利をつくり、育てていくのだと感じています。

小さな社会に落ちた一滴の雫が、静かに、でも確かに沁みわたっていくように。

2026年度も、こどもたちの声とともに、まだ見ぬわくわくを育て、広げていきたいと思います。



いくよー♪楽しい予感しかない



チャレンジのあと、声をつなぐ

こどもの声

たくさんの子がきてくれて
嬉しかったです
かけがえのない仲間にも出
会えてHappy~です!

計画をしていくうちに、実現できない
ことが分かってきたけど、ちがう方法
でできてよかったです。
本番も大成功でここまで一緒に助けたり
してくれたみなさんに感謝です

全部売り切れるか心配だったけど、無事完売
ができてうれしかったです!ジュースの缶には
ったシールをかばんにつけてくれたり、写真を
とってもらえてとてもうれしかったです!

さいこう

おんがくのがっきを
つくるのがたのしかった!!

たのしすぎて
またいきたいよ

新聞の記者さんが来て、
お話をききにきてくれました!

がっきのつくり方を
教えるのにさいしょ
しっぱいしてしまった
けど、さいごは
せいこうできました

フォーラムに関わった・参加した

こどもの
声

おもしろかった
いいがたくさんきてくれた

たくさんのおきやくさん
がきてくれてうれしい
友達ができた

たくさんの子がきてくれて
いそがしい時も楽しかった。
またこんどやりたいです。

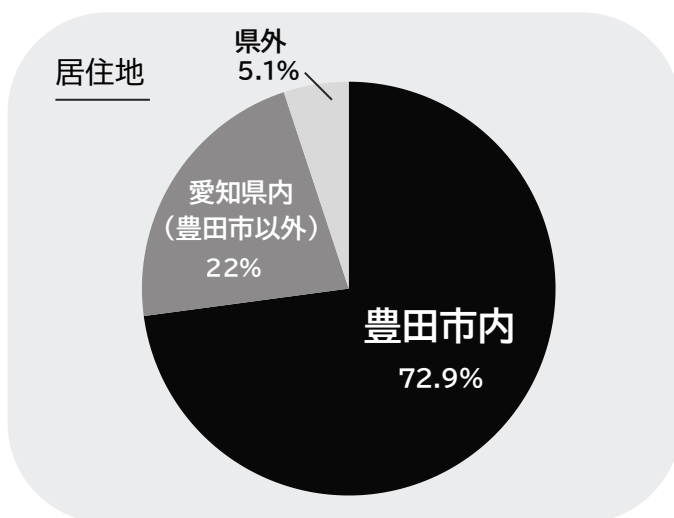
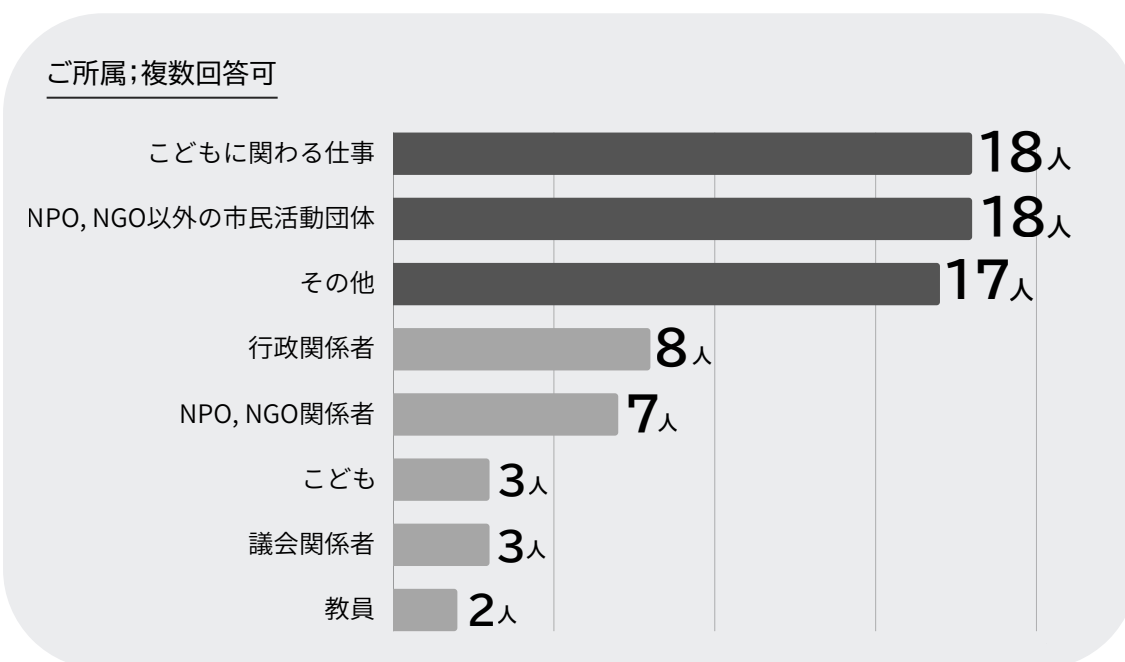
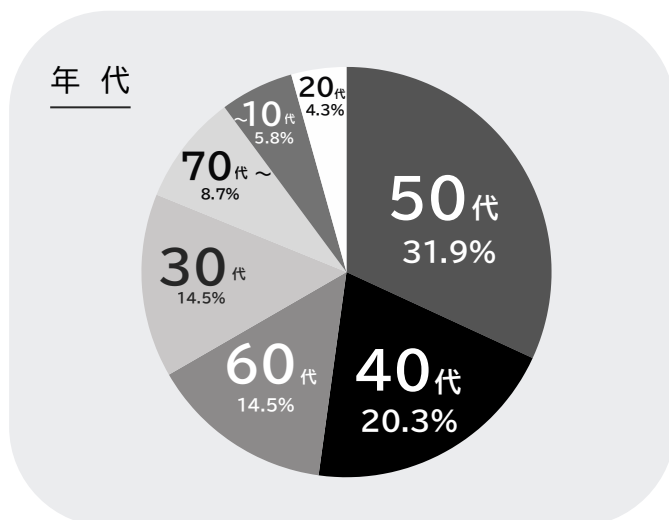
いいいとむずかしかった
でもたのしかった

自分たちがお客さんに喜んでもらえ
るようにつくったメッセージのシールを
大切にもっているのがとても印
象にのこっています。また、100本を売
り上げた時の達成感がすごくて印象に
残っています。

はじめのほうは急に参加になってわからな
いこともたくさんあったけど、みんなで協
力しながらすすめていくのがとてもよかつ
たです。よろこんでいるお客さんを見てと
てもうれしい気持ちになりました。

ドリンクスポットで
おかしをかってとても
ゆったりできました。

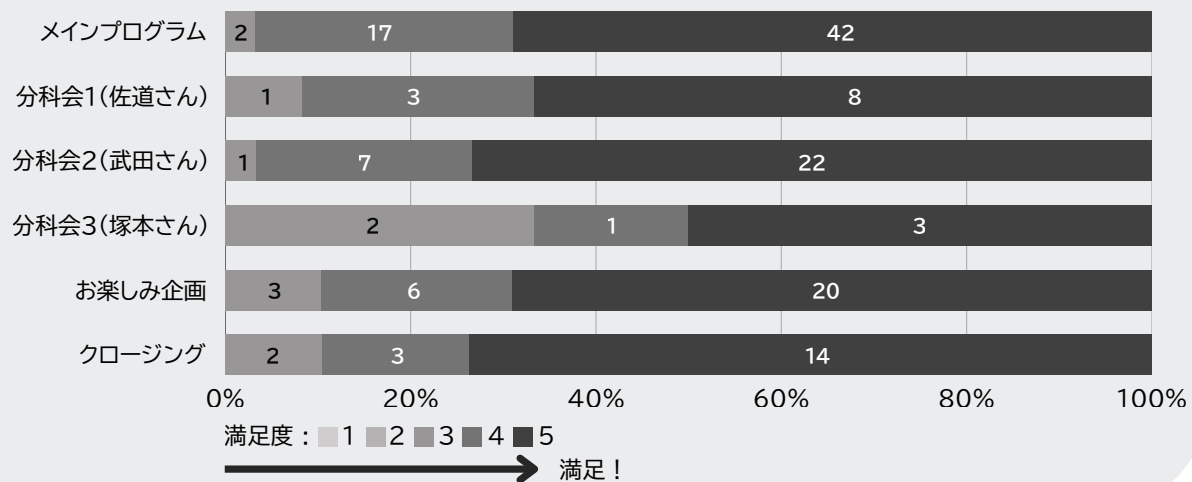
1. ご自身についてお聞かせください



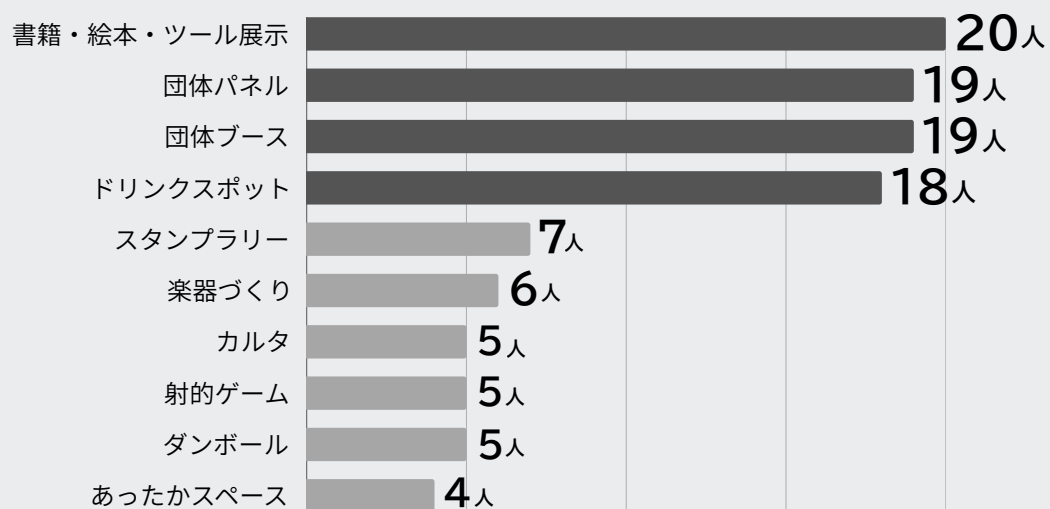
2. プログラムについてお聞かせください

プログラムの満足度をお聞かせください(プログラムに参加されていない方は、ご記入は結構です)

(単位:人)

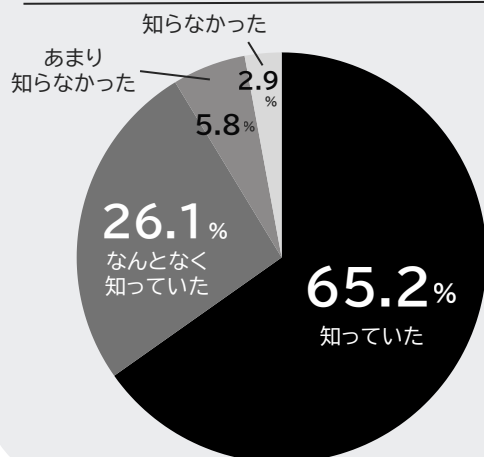


お楽しみ企画に参加された方、参加されたプログラムを選択してください(Webのみの設問)

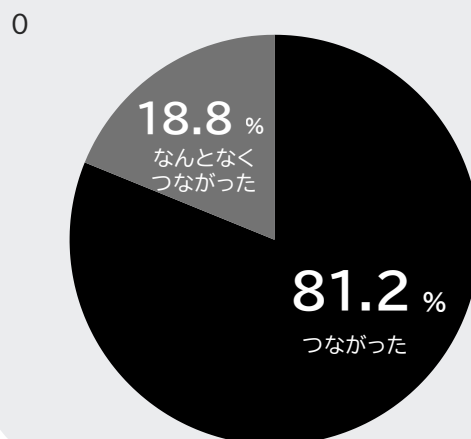


3.『子どもの権利』についてお聞かせください

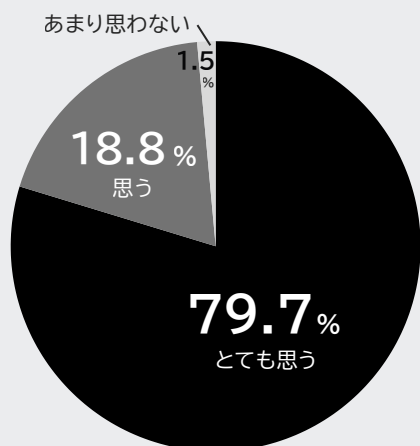
フォーラムの参加以前に『子どもの権利条約、
豊田市子ども条例』についてご存じでしたか？



フォーラムに参加して『子どもの権利』の理解
につながりましたか？

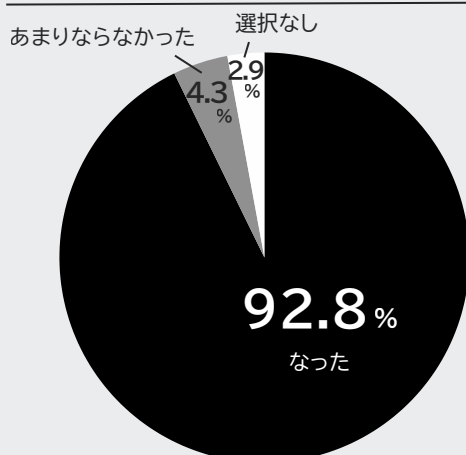


『子どもの権利』を広げていきたい、もしくは、
広がると良いと思いましたか？

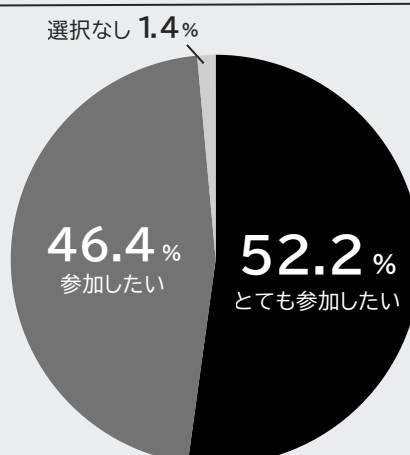


4. 今回のフォーラムを通して、感想などを教えてください。

新たな人や団体とのつながりや、気づき、学び
の機会となりましたか？



今後も、このようなフォーラムに参加したいで
すか？



アンケート自由記述より、一部抜粋【フォーラムを通して感じたことなど】

初めてフォーラムに参加しました。堅苦しくなく、4人の話が楽しく聴けてよかったです。来年は友人も誘って、一緒に参加できたらいいなと思いました。

「権利」という言葉がかたく、身構えていましたが、参加してみると全くかたくなくて、身近にあるものだと感じられました

行政、教員、支援団体、保護者などいろいろな立場の方が来ていることに希望を感じた。子ども権利条約の概要や現状の問題点に留まらず、これから出来ることを丁寧に伝えてくださり、より自分ごととして捉える機会となった。同時に、対話の必要性を感じたし、自分自身アップデートしていかないと感じました。

子どもが「自由に過ごすこと」や「場所づくり」について、種まきは大人だけれど、あくまで子ども主体である、をやっているつもりでも大人が声をかける塩梅で子どもにとってのあそびや、まなびにつながるきっかけ、安心感がまったく変わるということが印象的でした。

大人の気持ち、心掛けに頼るのではなく「空間」「仕組み」作りについて理解できた。

教育に関わる内容が多く、背筋が伸びる思いでした。でも、学校を責めるわけではなく、現場のしんどさも受けとめてくださっている内容でほっとしました。

子どものことを真剣に考え、行動している大人がこんなにたくさんいることは、豊田市の財産ですね。学校教育分野にも、もっと取り入れられるよう、一つずつ考え行動していきたいと思いました。武田さんもおっしゃっていましたが、学校の先生方の環境改善は急務です。思いのある先生方の心が折れて辞めてしまう前に。

いつ来ても出会いがあって、うれしいです。

歌がよかった!! オンラインもいいけれど、人と会うことは大切。

失敗をする権利をうばわないようにしたいけど、それをまわりに広めるのが大変だなと。

障がいのある子どもの参加や内容があったらいいなと思いました。(障害のある子どもは見つけやすい見ただけでわかりやすいマイノリティではあるけれど、参加や参画を考えると存在がいなくなってしまうがちです。) どうしてこの場にはいないのか、参加しづらさがあるのか、みんなで考えられるといいなと思います。

みんな(子どもたち)が、けんりにいっしょうけんめいかんがえているきがしておどろいた。

とりあげて欲しいテーマ

教育・保育について

- 学校と不登校。教育や保育。学び方の多様性。フリースクール。
- 生徒評価をつける先生側の視点
- 先生や保育士の立場での「子どもの権利」についてのシンポジウムの開催

海外の事例

- デンマークの幼児教育、仲間とする子育てについて

放課後、遊び場

- 放課後児童クラブ。プレーパーク。地域の居場所。
- 自由に遊ぶ場に勇気を出して行けるようにするには…(外に出るのに勇気がいる)
- こどもが安心して遊べる場の在り方について(放課後学校の運動場では遊べない/遊具も減っている)
- 小学校の部活がなくなりクラブチームとか入れない子、中学校の部活も変化、どうなっていくのか？

制度など

- 公の実態、動きについて

権利

- 子どもの権利。学ぶ権利。
- 子どもの意見表明。アドボカシーについて
- 大人とは？こどもとの違い。大人にとっての権利(大人自身が自分の権利について理解不十分。自分自身が権利を理解していれば自ずとこどものことも理解できると思われます)
- アダルトチルドレンや毒親の存在について
- 声を上げると言いながら本当に挙げることができるのか？
- みんなにとって自由とは？

豊田市からのことば

(こども・若者政策課)

こども・若者政策課 課長:近藤啓史
担当者:中島康輔、松田あゆみ

こども・若者政策課 課長

昨年に引き続きとよたこどもの権利フォーラムが盛況に開催できたことを本当に嬉しく思います。実行委員会の皆様の子どもの権利を多くの方に知ってもらいたいという熱い思いが溢れた素晴らしいフォーラムでした。その思いは間違いなく参加された皆様に確実に伝わったものと思います。

参加された皆様が今回のフォーラムを通じて感じられたことや気づいたことがさらに周りの大人の方やこども・若者達に伝わり、誰もが当たり前のように、子どもの権利を理解している、そして実践していることにつながるといいなと思っています。

担当者

フォーラム参加者同士が気づきをシェアする様子、お互いの活動について紹介し合う様子、そしてボランティアの皆さんの関わり。人と人がつながり、「こどもにやさしいまち」が育まれている空間に立ち会えたことを、とても嬉しく思います。また、活動分野や立場は違えど、こどものために何かしたいという思いで集まった委員の皆さんと一緒に活動できたことも、私たちにとっての大切な「みいつけた」です。これからも、市民団体の皆さんと共に、豊田市の子どもにやさしいまちづくりを進めていきたいと思っています。

実行委員団体紹介

とよたこどもの権利フォーラム2025 知る！ 実行委員団体紹介



実行委員団体募集中

イトノワ

豊田
市内

中間支援、子どもの意見表明支援

子どもに関する市民活動団体の中間支援を柱としています。今年度はとよたこどもの権利フォーラム事務局や、子どもが自分の意見を自分の言葉にするための場づくりをしてきました。

活動日 不定期

📷 @itono.wa 📄 <https://www.facebook.com/profile.php?id=61565692948940>

特定非営利活動法人 こどもNPO

名古屋
市

知立
市

子どもの社会参画

子どもに寄り添い、声を聴き、日常の中で関係性を紡ぎながら「子どもの社会参画」を実現する活動をしています。一緒に活動してくれる人募集中。団体ホームページ見てね！

活動日 事業により活動日が異なります。お問合せ下さい。

📷 @kodomo.npo 🌐 <https://kodomo-npo.or.jp/>

こどものマイクけんきゅうかい

豊田
市
会議室

子どもの意見表明支援

わたしたちは、子どもたちが安心して、気持ちや意見を表明できる環境と文化について研究するとともに、様々な活動を通じてその実現を目指します。

活動日 月例会を開催しています

📷 @kodomonomaiku 📄 <https://m.facebook.com/chiladvocacykodomonomic/>

Sokkaの会

浄水
交流館

不登校の親の会

それぞれの想いや悩みを話したり聞いたりしています。評価される心配なく話せる場であること、安心できる人や場に繋がる事が出来る会であることを大切にしています。

活動日 月に一回 金曜日

📷 @sokkanokai 📄 <https://www.facebook.com/sokkanokai>

野外保育とよた森のたまご

松平
の里山

森のようちえん

一人ひとりの子どもにじっくり寄り添い、人のあたたかさの中で子どもも大人も育ち合うことを目指す、共同保育・共同運営の森のようちえんです。2025年度園児募集中です。

活動日 火曜日～金曜日

📷 @morinotamago2010 🌐 <https://www.morinotamago.com/>

NPO法人あいちCAPプラス

豊田
市内

西
三河

尾張
旭市

子どもへの暴力防止

CAPは、子ども達がいじめ、虐待、連れ去り誘拐、性暴力などの様々な暴力から自分の心と体を守るための、人権教育のプログラムです。

活動日

📄 <https://www.facebook.com/aichicapplus/> 🌐 http://www1.m2.media.cat.ne.jp/a_cap_plus/

ゆるっと♡ほけんしつ夢カフェ

豊田
市
駅周辺

10代20代の相談と居場所

思春期世代・若者のからだや心の相談に寄り添いたいと活動する専門職によるボランティア団体です。「自分を大切に守る」「ゆるやかにつながる」ことをコンセプトに豊田市駅周辺で保健室を開催、LINE相談を無料で受けています

活動日 月一回 土曜日午後 不定期

📷 @yuruttohokenshitsu_yumecafe

社会的マルトリートメント予防中部支部

マルトリートメント予防

大人が子どもの為に良かれと思い、子どもの発達を阻害する不適切な対応や虐待をしていないか…その背景には社会全体で善とする価値観がないか…一緒に考えてみませんか。

活動日 不定期

📄 <https://www.facebook.com/maltreatment.domannaka>

とよたプレーパークの会

鯉ヶ池
公園

子どものおそび場・居場所づくり

「子どもにとって遊びとは？」禁止事項をなくし、大人は見守る。すると子どもたちは、のびのびと遊び始めます。遊ぶことの大切さを一緒に考え、遊びを見守る仲間も募集中です♪

活動日 月に4回ほど 土・日・時々月曜日

📷 @toyotapurepa_kai 📄 <https://www.facebook.com/kuragaikeplaypark>

自立生活センター 十彩

豊田
市内

障害児・者へ情報提供・障害に関する啓発活動

インクルーシブ社会を周知するため、障害当事者が講師となり市内の小中学校を主に講話や車いす体験の講座をしています。一緒に学校訪問をしてくれる方も、随時募集しています。

活動日 月～金曜日

📷 @cil_toiro 📄 <https://www.facebook.com/share/14uhpRrsck/>

実行委員団体紹介

知る！ 実行委員団体紹介

一般社団法人JUNTOS

保見
団地

子どもたちと地域づくり

「愛あるつながりを感じられる社会を子どもと一緒に創造する」をモットーに、保見団地で学習支援教室や地域イベントの企画運営を行っています！

活動日 毎週土曜日

📷 @juntos.like 🌐 <https://www.facebook.com/juntos.homi>

一般社団法人
子どもアドボカシーセンターNAGOYA

愛知
県内

子どもアドボカシーの推進

子どもも社会の一員として、その意見や思いが必要となるに届くようにするのが子どもアドボカシーです。自信をもって自分の気持ちや願いを話せるようお手伝いしています。

活動日 不定期

📷 @childadv_nagoya 🌐 <https://childadvocacy758.org/>

フリースペースK

久保
町 崇化館
交流館

子育て応援、サードプレイス

場づくり・場の提供を通して、生き心地のよいまちづくり。活動は子育て応援・学びの場・情報発信・サードプレイス等。世代・地域・価値観の違う人達と垣根なく、ゆるやかにつながる。

活動日 不定期

📷 @freespacek 🌐 <https://yaigaya.jimdoofree.com>

新日本婦人の会 豊田支部

豊田
市内

子育て支援、産直運動、平和活動他

暮らし、子育て、平和など女性の願いで行動し、国連に認証されたNGOです。やりたい、困ったの要求を大切に全国で自主的に活動している会です。女性や子どもの権利やしあわせのために力を合せています。

活動日 不定期

☎・FAX 0565-33-8110
✉ sinfujintoyota@gmail.com

若者の家

豊田
市内

ひきこもり支援

家を出ることで、ひきこもりからの脱却を目指していきます。親や他人からのプレッシャーから離れること・自分自身で生活することで安定していき、自然と自分の中から意欲が出てくることを大切にしています。

活動日 毎日

🌐 <https://wakamonoioie.wordpress.com/>



とよた

2025

こどもの権利フォーラム

豊田・みよし おやこ劇場

豊田市
近郊 交流館
ホール

舞台芸術鑑賞&仲間と子育て

仲間と共に、生の舞台芸術を観る会。劇団の方をはじめ様々な人との出会いを大切にしています。人の温かい繋がりが、文化芸術が、子どもたちの未来を照らしますように。一緒に活動しませんか？いつでも大歓迎！！

活動日 火・水・金 10:00~15:00開局 主に土日イベント多数

📷 @toyotamiyoshiyako 🌐 <https://m.facebook.com/085osaso/>

NPO法人チャイルドライフあいち

名古屋
市

子ども専用相談窓口

18歳までの子どもの声を電話やチャットで聴き、こころの居場所を作っています。またデータを通して子どもの現状を発信し、子どもの生きやすい社会づくりを目指しています。

活動日 不定期

📷 @cl.aichi 🌐 <https://cl-aichi.net/>

BYBSコーチング

全国 海外

子ども&おとなの非認知能力(自己肯定感など)育成

自治体、学校、家庭教育を中心に幸せの根底にある非認知能力(自己肯定感、自制心、主体性、GRITなど)の育成法を伝えています。やり方の前にあり方を！人を育てるプログラムで満足度100%!

活動日 随時開催

📷 @bybs_japan 📞 @996bbgdm

個性の強い子どもを地域で支える会

豊田
市内

個性の強い子ども(発達障がい児)の理解と支援のサポート

個性の強い(発達障がい)子どもたちの理解と支援を考え、おしゃべり会や講演会を開いています。診断の有無は問いません。どなたでも参加できます。親や支援者、当事者など色々な立場の方が参加しています。

活動日 基本的に第2水曜日、第3日曜日

🌐 <https://www.toyota-shiminkatsudo.net/G0000476/aboutus.html> (*とよた市民活動センター情報サイトより)

～実行委員団体募集中～

こどもの権利が「考えるもの」ではなく

“あたりまえ”にそこにある文化にしていきたい! そんな仲間とつながり、フォーラムをいっしょに育てていきませんか?

まずは実行委員会をのぞいてみませんか?

気軽に「ご参加ください!」

お問合せ・参加希望はこちら↓

toyota_kodomo_kenri@gmail.com



※子どもの権利条約は前文と54条の条文から成り立っています。日本コセツ協会では具体的な子どもの権利を定めた第1〜40条をわが国やさい瑣条として公開しています。

出典：日本ユニセフ協会

子どもにとって大切な4つの権利とは？
あらゆるとき、あらゆる場所において、これらの権利が大切なものとして保障されます。

①安心して生きる権利 (子ども条例第5条)

- 命が守られ、かけがえのない存在として大切にされること
- 愛情と理解をもってはぐくまれること
- あらゆる差別や不当な不利を受けること
- いじめ、虐待、体罰などのあらゆる暴力や過度なストレスから心と体が守られること など

③豊かに育つ権利 (子ども条例第7条)

- 遊ぶこと、学ぶこと
- 保護者と一緒に、食事や会話などの楽しい時間を過ごすこと
- 芸術、文化、スポーツなどに親しむこと
- 夢に向かって挑戦し、失敗しても再度挑戦すること など

②自分らしく生きる権利 (子ども条例第6条)

- ありのままの自分が認められること
- 個性が尊重され、その個性を伸ばすことについて支援が受けられること
- 安心できる場所で休み、自由な時間を持つこと
- プライバシーや名誉が守られること など

④参加する権利 (子ども条例第8条)

- 自分の気持ちや考えを表明すること
- 年齢や発達にふさわしい活動の機会が用意されること
- 年齢や発達に応じて意思決定に参加すること
- 必要な情報を大人や社会に求め、集めること など

子どもの育ちを支えるみんなの役割とは？
子どもと大人が協力して、子どもにやさしいまちづくりを進めます。

市 民
地域のなかで子どもを育てること
地域の活動に子どもの意見を取り入れること
子どもの居場所をつくりだめること など

子どもたち (権利の主体)
自分の権利を大切にできるように努めること
他者の権利を尊重するように努めること

保護者
子育ての第一責任を持つこと
子どもにとって最もよいことを考えて援助や指導をすること
子どもの気持ちを理解し、十分に話し合うこと など

子どもにやさしいまち

子育て施設 (子どもを対象とする教育施設、福祉施設など)
子どもの年齢や発達に適切な援助や指導をすること
子どもの主体的な活動を支援すること
いじめを防止し、相談しやすい環境を整えること など

事業所 (事業活動を行うすべての人、団体)
子育てしている家庭に支援すること
仕事と子育ての両立を支援すること
障害・危険状態から子どもを保護すること など

子ども会館 (子ども条例第19条)
豊田市は、子どもにやさしいまちづくりについて、子どもの意見を聞くために、子ども会館を運営します。
子ども会館では、小学生から高校生までの子どもが、テーマを決めて話し合いをしています。
話し合ったことは、市に提案することができます。

市
条例と子どもの権利について広く知らせること
子どもの権利が保障されるよう努めること
子どもに対する虐待の予防と早期発見に取り組むこと
子どもの意見表明や参加を促進すること
子ども会館を設置すること
子ども総合計画を策定すること など



子どもにとって大切な4つの権利とは？
あらゆるとき、あらゆる場所で、これらの権利が守られます。

①安心して生きる権利

- 命が守られ、大切にされること
- 愛情をもって育てられること
- 差別されないこと
- 心と体が守られること など

③豊かに育つ権利

- 遊んだり、学んだりできること
- 食事や会話などの楽しい時間を過ごすこと
- 文化やスポーツに親しむこと
- 夢に向かってがんばること など

②自分らしく生きる権利

- ありのままにいられること
- 自分らしさが認められること
- 安心できる場所を持つこと
- 一人での自由が守られること など

④参加する権利

- 自分の気持ちや考えを発表すること
- 年齢に合った活動ができること
- 何かを決める話し合いの場所にいられること
- 知りたいことを教えてもらえること など

子どもの育ちを支えるみんなの役割とは？
子どもと大人が協力して、子どもにやさしいまちづくりを進めます。

市 民
子どもを見守る

子ども
権利が守られる

親など
子育てに責任をもつ

子どもにやさしいまち

市 校
子どもを助ける

会社など
子育てを支える

子ども会館
豊田市は、子どもにやさしいまちづくりについて、子どもの意見を聞くために、子ども会館を運営しています。
子ども会館では、小学生から高校生までの子どもが、テーマを決めて話し合いをしています。
話し合ったことは、市に提案することができます。

* 豊田市 子ども・若者政策課
とよた子どもの権利相談室(こことよ)で受け取れます。

ブックリスト

ご注文・お問い合わせ

各出版または書店にてご注文ください

- | | | |
|---|---|---|
| 1 小学館
http://www.shogakukan.co.jp/ | 15 影書房
http://www.kageshobo.com/ | 31 北大路書房
http://www.kitaohji.co.jp/ |
| 2 創元社
http://www.sogensha.co.jp/ | 16・27 大月書店
http://www.otsubishoten.co.jp/ | 33 高文研
http://www.kouwenken.co.jp/ |
| 3 東海教育研究所
(かもめ本部)
http://www.tokaido.co.jp/ | 17 文研出版
http://www.shokko-kenin.co.jp/bunka/ | 37 解放出版社
http://www.kaihou-s.com/ |
| 4 自由国民社
http://www.jyu.co.jp/ | 19 童心社
http://www.doshinsha.co.jp/ | 39 汐文社
http://www.shiwaisha.com/ |
| 5・56 岩波書店
http://www.iwanami.co.jp/ | 20 北樹出版
http://www.hokuryu.co.jp/ | 50 PHP研究所
http://www.php.co.jp/ |
| 6 KADOKAWA
http://www.kadokawa.co.jp/ | 21・32・55 エイデル研究所
http://www.aider.co.jp/business/books/ | 51 白泉社
http://www.hakusensha.co.jp/ |
| 7・16 現代人文社
http://www.gengo.co.jp/ | 22・25・35 明石書店
http://www.akashi.co.jp/ | 52 NHK出版
http://www.nhk-book.co.jp/ |
| 8 本の泉社
http://www.honnoizumi.co.jp/ | 23 風間書房
http://www.kazumashobo.co.jp/ | 53 南方新社
http://www.namposu.com/ |
| 9・24 萌文社
http://www.hibunsha.com/ | 26 ひだまり舎
http://hidamariya.com/ | 54 出版ワークス
http://ipn-works.com/ |
| 11・35 新日本出版社
http://www.shinshin-net.co.jp/ | 25 放送大学教育振興会
http://www.ua-book.or.jp/ | 55・56 合同出版
http://www.godou-shuppan.co.jp/ |
| 12・35 Art.31
http://www.art31project.com/ | 29・36 かもがわ出版
http://www.kamogawa.co.jp/ | 57 三省堂
http://www.sansido-publ.co.jp/ |
| 13 彩流社
http://www.sairyuha.co.jp/ | 30 ぎょうせい
http://gyousei.jp/ | 59 子どもの未来社
http://comrai.shop12.makenet.jp/ |
| 14・15 信山社
http://www.shinsan.co.jp/ | | |

生かそう！子どもの権利条約出版社（有志）の会

第5版 2023/1/20

UN Convention
on the Rights of the Child

知ろう！読もう！生かそう！
国連子どもの権利条約

Book list
ブックリスト

生かそう！子どもの権利条約出版社（有志）の会

リストはどなたでもご自由にご活用いただけます

子どもの権利条約
ブックリスト

<https://www.tokaiedu.co.jp/kamome/pdf/CRCbooklist.pdf>

子どもと法律をしっかりとつなぐ！

いじめ防止法
子どもガイドブック

いじめ防止法
子どもガイドブック

子どもたちに知ってほしい「いじめ防止の法律」をわかりやすく解説し、子どもの人権・権利の大切さを伝え、いじめられにくい「いじめを止めた」・「いじめを見たら」という3つの立場で弁護士が子どもへアドバイスする。

著・佐藤隆代 三浦彰彦 加藤昌子
定価：本体1500円＋税 ISBN 978-4-86412-240-5 C8032

子どもの未来社 〒101-0052 東京都千代田区神田小川町3-16-7 真龍館ビル602 電話：03-3830-0027 FAX：03-3830-0028

世界の子ども権利かるた

甲斐田万智子（監修）
認定NPO法人 国際子ども権利センター（シーライツ）（制作）

みんなで知ろう！
わたしたちのチャイルドライツ

かるたを通じて、日本と世界の子どもが置かれている状況を知り、暮らしのなかで子どもの権利はきちんと守られているのか考える教材として最適です。◎3740円（税込）

合同出版 〒184-0001 東京都小金井市関野町1-6-10 TEL042-401-2932 FAX042-401-2931

ユニバタカレンダー2024

365日かけて、ゆっくり権利（right）とともにだち！

カレンダー、絵本ガイドブック、権利（right）絵本のおまめは

Art.31

ホームページより
<https://www.art31project.com/>

メール info@art31project.com
FAX 0266(78)1690

かもがわ出版 〒602-8119 京都市上京区堀川通出水西入
TEL 075-432-2868 FAX 075-432-2869

子どものための居場所論
異なることが豊かさになる 阿比留久美◆著

子どものための居場所が、おとなの適切な管理や配慮、そして社会の同調圧力によって奪われてはいけません。子どもがのびのび生きることができ、同時に地域社会を豊かにしていくような「まなざし」のあり方を考えます。

「居場所」という言葉を、こんなにわかりやすく解きほぐしてくれた本は初めて！
西野博之さん（認定NPO法人フリースペースにまはり理事長）

四六判240頁
定価2200円（税込）

はじめまして、子どもの権利条約
【改訂版】 監修：川名はつ子

スウェーデンの児童ジャーナリスト・ノーマンが描いたシンプルで力強いイラストを、オールカラーで掲載。全54条の中から17の条文を抜粋し、その内容をわかりやすく解説する絵本。

子どもと大人が一緒に読める絵本

オールカラー

ふりがな付き

定価880円（税込）
B5判・並製・64頁（2色）
978-4-924523-09-8

定価1,650円（税込）
B5判・上製
88頁（カラー74頁）
978-4-924523-23-4

東海教育研究所



生かそう！子どもの権利条約出版社（有志）の会が出版社の垣根を越えて手を取り合い、本の力を借り、読者のみなさまとの出会いによって、国連子どもの権利条約の普及と社会における子どもの権利基盤の一層の向上をめざします。

ブックリスト

生かそう！
子どもの権利条約
出版社（有志）の会

子どもの権利条約ブックリスト

子どもによる「子どもの権利条約」 ●小口尚子、福岡勉、エドムネステイ日本支店、谷川保太郎監修 小学館 A99781.388 定価1,496円（税込）	子どもの権利宣言 ●シェンヌ出版社編 通巻中から1冊 創元社 978442320274 定価2,640円（税込）	はじめまして、子どもの権利条約 ①【お話し】 ②ワークブック ●川口はつ子監修 チャーム・バーマン監修 東海教育研究所 ①9784924323234 定価1,650円（税込） ②9784924323235 定価880円（税込）	子どもの権利条約ハンドブック ●木村千晶、福岡勉監修 CRC日本支部 自由国民社 9784426120542 定価1,870円（税込）	子どもの権利条約ハンドブック ●中野光、小笠原直 岩波書店 9784009007702 定価990円（税込）	子どもと権利 ●中野光、小笠原直 岩波書店 9784009007702 定価990円（税込）	子どもの権利条約から見た日本の子ども ●国際子ども権利委員会 第1回報告書と解説 ●子どもの権利条約 NGOレポート連絡会編 現代人文社 978477884801 定価2,530円（税込）	国連子どもの権利条約と日本の子ども ●第4-5回報告書と解説 ●子どもの権利条約 NGOレポート連絡会編 現代人文社 978477884801 定価2,530円（税込）
子どもの権利条約新議定書 ●国際子ども権利委員会 第1回報告書と解説 ●子どもの権利条約 NGOレポート連絡会編 現代人文社 978477884801 定価2,530円（税込）	子どもの権利条約新議定書 ●国際子ども権利委員会 第1回報告書と解説 ●子どもの権利条約 NGOレポート連絡会編 現代人文社 978477884801 定価2,530円（税込）	うばわい！子ども時代 ●山崎均、宮城史郎監修 新日本出版社 978440066695 定価1,650円（税込）	子どもの権利条約・子どもの文化権（31条） ●山崎均、宮城史郎監修 新日本出版社 978440066695 定価1,650円（税込）	国際条約じてん ●ニュースに出てくる 3人権 ●山崎均、宮城史郎監修 新日本出版社 978477910104 定価2,740円（税込）	友だちを助けるための国際人権法入門 ●中野光、小笠原直 岩波書店 9784009007702 定価990円（税込）	くらしと教育をまもるきまり ●山崎均、宮城史郎監修 新日本出版社 978440066695 定価1,650円（税込）	子どもの意見表明権の保障 ●山崎均、宮城史郎監修 新日本出版社 978440066695 定価1,650円（税込）
子どもの権利条約新議定書 ●国際子ども権利委員会 第1回報告書と解説 ●子どもの権利条約 NGOレポート連絡会編 現代人文社 978477884801 定価2,530円（税込）	子どもの権利条約新議定書 ●国際子ども権利委員会 第1回報告書と解説 ●子どもの権利条約 NGOレポート連絡会編 現代人文社 978477884801 定価2,530円（税込）	うばわい！子ども時代 ●山崎均、宮城史郎監修 新日本出版社 978440066695 定価1,650円（税込）	子どもの権利条約・子どもの文化権（31条） ●山崎均、宮城史郎監修 新日本出版社 978440066695 定価1,650円（税込）	国際条約じてん ●ニュースに出てくる 3人権 ●山崎均、宮城史郎監修 新日本出版社 978477910104 定価2,740円（税込）	友だちを助けるための国際人権法入門 ●中野光、小笠原直 岩波書店 9784009007702 定価990円（税込）	くらしと教育をまもるきまり ●山崎均、宮城史郎監修 新日本出版社 978440066695 定価1,650円（税込）	子どもの意見表明権の保障 ●山崎均、宮城史郎監修 新日本出版社 978440066695 定価1,650円（税込）
子どもの権利条約新議定書 ●国際子ども権利委員会 第1回報告書と解説 ●子どもの権利条約 NGOレポート連絡会編 現代人文社 978477884801 定価2,530円（税込）	子どもの権利条約新議定書 ●国際子ども権利委員会 第1回報告書と解説 ●子どもの権利条約 NGOレポート連絡会編 現代人文社 978477884801 定価2,530円（税込）	うばわい！子ども時代 ●山崎均、宮城史郎監修 新日本出版社 978440066695 定価1,650円（税込）	子どもの権利条約・子どもの文化権（31条） ●山崎均、宮城史郎監修 新日本出版社 978440066695 定価1,650円（税込）	国際条約じてん ●ニュースに出てくる 3人権 ●山崎均、宮城史郎監修 新日本出版社 978477910104 定価2,740円（税込）	友だちを助けるための国際人権法入門 ●中野光、小笠原直 岩波書店 9784009007702 定価990円（税込）	くらしと教育をまもるきまり ●山崎均、宮城史郎監修 新日本出版社 978440066695 定価1,650円（税込）	子どもの意見表明権の保障 ●山崎均、宮城史郎監修 新日本出版社 978440066695 定価1,650円（税込）
子どもの権利条約新議定書 ●国際子ども権利委員会 第1回報告書と解説 ●子どもの権利条約 NGOレポート連絡会編 現代人文社 978477884801 定価2,530円（税込）	子どもの権利条約新議定書 ●国際子ども権利委員会 第1回報告書と解説 ●子どもの権利条約 NGOレポート連絡会編 現代人文社 978477884801 定価2,530円（税込）	うばわい！子ども時代 ●山崎均、宮城史郎監修 新日本出版社 978440066695 定価1,650円（税込）	子どもの権利条約・子どもの文化権（31条） ●山崎均、宮城史郎監修 新日本出版社 978440066695 定価1,650円（税込）	国際条約じてん ●ニュースに出てくる 3人権 ●山崎均、宮城史郎監修 新日本出版社 978477910104 定価2,740円（税込）	友だちを助けるための国際人権法入門 ●中野光、小笠原直 岩波書店 9784009007702 定価990円（税込）	くらしと教育をまもるきまり ●山崎均、宮城史郎監修 新日本出版社 978440066695 定価1,650円（税込）	子どもの意見表明権の保障 ●山崎均、宮城史郎監修 新日本出版社 978440066695 定価1,650円（税込）

リストはどなたでもダウンロードしてご自由に活用いただけます。
配布物や掲載物、参考資料としてなど、ぜひご利用ください。

ダウンロード PDF

<https://www.tokieda.co.jp/kamome/pdf/CRCbooklist.pdf>

歌プロジェクト

「子どもの権利条約フォーラム2023inとよた」がきっかけで繋がり、活動を始めたグループ。デビュー曲のLoopは、学校に行きづらい子の声を集めて歌詞にし、メンバーが曲を付けたもの。その後新曲も作り、豊田市内のイベントなどで歌う。Unhappiness theoryは、最新曲の1つ。

Loop

作詞・作曲:歌プロジェクト

いつか 思い描いてた 幻想も
いつの日か 消えていってしまうの 周回の中に
自分自身 期待してない
周りの目ばかり気にして
癖になっく
続いていく周回に 差した嫌気に
望む退路に 置いた希望に ただひたすらに
すくむ片手を 伸ばしていた
ループして
ループして
ループして
終わる毎日が
せめて特別な一日でありますように
逃げ出して 走り出して
建前的な前進で 立ち止まらないで

不安になること自体
「これから」があると信じたい
優しい言葉も 何もいらないよ
せめて信じてみたい
高鳴る鼓動に
乗せて僕ら歌いだす
ループして
ループして
ループして
終わる人生が
これまでのすべてが自分だと思えますように
いつかの投げ出した
あの日を忘れないで
ループして
ループして
ループした
その先で
笑い合えますように



Unhappiness theory

作詞・作曲:歌プロジェクト

今日も相変わらず 退屈な毎日
幸せ素通りで 自分って本当に必要なのかな
今日も手一杯 忙しい毎日
疲労困憊で
自分の事とかどうでも良くなって
将来も幸せな生活も 全て僕らが掴み取るの
ねえ
あなたの笑顔で
あなたの言葉で
もうちょっとだけ頑張れる気がするの
確かな今まで
僕らのコレカラ
この物語の続きを進めよう
今日も相変わらず 最悪な毎日
失敗ばかりで 涙もこぼれそうになって

見えない将来 意味のない存在
「今すぐ消えたい！」
って本心叫んでもいいんじゃない？
ねえ
あなたの幸せは
僕の幸せ
じゃない！
そう
もう迷わない
立ち止まらない
これまでの自分を許してやるの
出会いと別れに
泣き笑いを行ったり来たり
一度しかない「今」を生きるの



ツールリスト

子どもの権利に関するツール・書籍などの展示・物販』コーナーにて、
子どもの権利が楽しく・親しみやすく学べるツールの展示、販売をしました。

『世界の子ども権利かるた』～みんなで知ろう！わたしたちのチャイルドライツ～

合同出版（甲斐田万智子 監修） ￥3,400＋税



※こども発企画の“かるた&スクラッチゲームチーム”にて使用

パンフレット協賛

(五十音順)

有限会社 有吉住宅
一般社団法人 いま・ここ
一般社団法人 Will
株式会社 eight
kabo.
NPO法人 金銭教育研究会
株式会社 こいけやクリエイト
空飛ぶ羊
一般財団法人 善都財団
生活クラブ生協豊田センター
チャイルドラインあいち

NPO法人 豊田ハンディキャプの会
豊田信用金庫
豊田・みよし おやこ劇場
一般社団法人 豊田青年会議所 子どもの生き抜く力創造委員会
合同会社 なんつな
びぼ編集室
有限会社 ホームドック、タイキ
株式会社 モダン装美
野外保育とよた森のたまご
NPO法人 ユートピア若宮
一般社団法人 Re Smile

22社/団体 全30口

※参考:2024実績 12社/団体 全18口

Instagram協賛

(五十音順) 2026/2/17現在

有限会社 有吉住宅
一般社団法人 JUNTOS
新日本婦人の会豊田支部
西山区太鼓連
有限会社 はっぴー農産
有限会社 ホームドック、タイキ
野外保育とよた森のたまご

全7口

※参考:2024実績 全6口

寄付

(五十音順) 2026/2/17現在

宇佐美 由紀
浦川 由香
小形 美和子(たべこよみ)
釘宮 順子
こどもフォーラム
子どもアドボカシーセンターNAGOYA
こどものけんりフレンズ
斉藤 尚文
田島 真実

種村 香絵
トヨタ生活協同組合
豊田・みよし おやこ劇場
hide
堀 尚子
宮川 華子
ゆのか
渡辺 薫

他4名および応援チケットを含め、全183口

※参考:2024実績 全149口

賛同団体

(五十音順)

ALLY
一般社団法人いま・ここ
こどものけんりフレンズ
ゆのか

多くの皆さまよりご協賛、ご寄付ならびに応援チケットを通じたご支援を賜りました。
心より感謝申し上げます。

主催

とよたこどもの権利フォーラム実行委員会

共催

豊田市

後援

こども家庭庁、愛知県、愛知県教育委員会、豊田市教育委員会、社会福祉法人 豊田市社会福祉協議会、広げよう！子どもの権利条約キャンペーン、公益財団法人日本ユニセフ協会

実行委員会構成団体 (五十音順)

NPO法人あいちCAPプラス、イトノワ、こどものマイクけんきゅうかい、特定非営利活動法人こどもNPO、一般社団法人子どもアドボカシーセンターNAGOYA、個性の強いこどもを地域で支える会、社会的マルトリートメント予防中部支部、自立生活センター十彩、新日本婦人の会豊田支部、Sokkaの会、一般社団法人JUNTOS、NPO法人チャイルドラインあいち、豊田市こども・若者政策課、とよたプレーパークの会、豊田・みよしおやこ劇場、BYBSコーチング、フリースペースK、野外保育とよた森のたまご、ゆるっと♡ほけんしつ夢カフェ、若者の家

実行委員会構成団体 (所属団体五十音順)

- 実行委員長 釘宮順子／フリースペースK
 - 副実行委員長 浦川由香／自立生活センター十彩
 - 事務局長 田島真実／イトノワ
 - 監事 山本貴美子／個性の強いこどもを地域で支える会
堀尚子／社会的マルトリートメント予防中部支部
 - 実行委員
- | | |
|---------------------------|----------------------|
| 斉藤美紀／NPO法人あいちCAPプラス | 鈴木英衣／とよたプレーパークの会 |
| 本岡恵／イトノワ | 鈴木牧穂／とよたプレーパークの会 |
| 河村玲子／特定非営利活動法人こどもNPO | 青木久美／豊田・みよしおやこ劇場 |
| 高橋弘恵／NPO法人チャイルドラインあいち | 弥田美雪／豊田・みよしおやこ劇場 |
| 一般社団法人子どもアドボカシーセンターNAGOYA | 鈴木貴子／豊田・みよしおやこ劇場 |
| 加藤康平／社会的マルトリートメント予防中部支部 | 松原康予／BYBSコーチング |
| 種村香絵／自立生活センター十彩 | 杉本愛／野外保育とよた森のたまご |
| 小松昌世／Sokkaの会・とよたプレーパークの会 | 堀内まどか／野外保育とよた森のたまご |
| 川合仁美／新日本婦人の会豊田支部 | 山口真友子／野外保育とよた森のたまご |
| 吉村迅翔／一般社団法人JUNTOS | 今西モト子／ゆるっと♡ほけんしつ夢カフェ |
| 中島康輔／豊田市 こども・若者政策課 | 菅井真紀／若者の家 |
| 松田あゆみ／豊田市 こども・若者政策課 | |

ボランティア (所属団体五十音順)

杉山裕興／一般社団法人 豊田青年会議所 子どもの生き抜く力創造委員会
芳賀亮介／一般社団法人 豊田青年会議所 子どもの生き抜く力創造委員会
平山賢治／TOYOTAのプロボノ
武藤宏史／TOYOTAのプロボノ
小松真一／個人ボランティア
高橋亮／個人ボランティア

写真で

振り返るフォーラム

当日の朝



場をひらく
ファシリテーターおよび
ゲストスピーカーによる
あいさつ

ファシリテーター
& ゲストスピーカー



受付



丁寧な最終確認で
はじまりを支える受付

アピールタイム



自分たちのことばで
ブリスをアピール
会場いっぱい
「楽しい」があふれだした

×インプログラム



×インプログラム



会場の様子



知らなかった世界に
心が動いた瞬間



会場の様子



ゲストスピーカーが
壇上から、参加者の輪へ
対話が生まれた時間

Lest's go!





クロー징ング

子どもたちのまなざし
楽しみのあとに
こどばが静かに残る



子どもたちと心をつな



分科会3



分科会1



物販



その場に集まった人たちと
遊びが広がる

団体ブース



何を見つけたのかな
わくわくがにじみ
二人の背中

この日を、ここに



交流タイム



見守るおとな
動き出す子ども
関わりの中で生まれる

前日準備



歌プロ